

日本GAPニューズレター

-1963-

5月・6月

日本GAPニューズレター

—1963—

5月・6月号目次

通巻第16号

時代の証言	G・アダムスキ	1
円盤問題における心霊的な詐欺行為	C・A・ハニー	3
ウィーンからの便り		11
質疑応答	C・A・ハニー	12
GAP本部便り	C・A・ハニー	16
現代の宗教の起源	C・A・ハニー	18
レイクランドの円盤		21
宇宙の人類が地球へ来る		22
共産主義とカルマの法則	デスモンド・レズリー	23
土星旅行記	G・アダムスキ	26
異常天候の原因	C・A・ハニー	32
生命の科学	G・アダムスキ	33
編集後記		36

時代の証言

C. アダムス キー

この一時代すなわち天の摂理が終わりを告げようとするときに多くの物事が起こり、人類間の混乱は絶頂に達するだろうといわれてきました。このことは今とんどん進行中です。より技きのすぐれた人たちの殆どは或る勢力によってかきまぜられていて、これを暗黒勢力と呼ぶ人もいますが、われわれはむしろサイレンスグループ（暗躍団体）と呼んでいます。彼らはわれわれの問題を混乱させるために知られている限りのあらゆる陰謀を利用していきます。

このグループは多数の人間から構成されている「頑張り屋」といってもよいでしょう。彼らはきわめて巧みに組織されていて、利用しようとする相手にたいしてきわめて多くの友好的な接近の手段を応用していますので、本人にとっては守護者かまたは突際上の神のように見えます。そして狙われた者は自分の最良の友にもそむき、これまで信じていた主義・思想をも捨てるようになります。

この証言は明白です。というのはこうした狙われた者（注。主

としてニセ宇宙人を信ずるようにたぶらかされた人）がすぐれた主義に脊を向ける場合、だれかがその愚かしさを指摘しようものなら本人は悪質になつてくるからです。本人が自分で見いだした新しい環境は快適であるためにそれを守ろうとして一生懸命になります。

火星及び金星に向けて放射されたロケットから送り返された新発見に関して、大衆の考えを混乱させるために右と同様の手段が用いられてきました。まず第一に私は二人の科学解説者が同じ話をしての聞いたことがありませんし、公表された二つの報導が同じ情報を伝えているのを聞いたこともありません。（注。

公表される情報の内容がその都度みな異なるの意）少しさかのぼってみますと、われわれは最近の火星ロケットに似た実験でついでこのあいだ金星が気球から観測された事実を知ることができました。その気球の観測報告によれば、金星はその大気の上層部に地球よりも三倍ないし五倍も多くの水蒸気を含んでいるということでした。当時科学者のなかには金星はおそらくフロリダに似ているかもしれないといった人たちもいます。しかしマリナー2号は水蒸気は存在しないと報告し、少なくとも一つの実験は誤った情報を伝えたということを示しました。もしマリナー2号からの一つの報告が誤っていたとすれば、われわれはどうして他の報告を信頼できるでしょう。

かつて地球をまわる人工衛星が地球を観測したことがあって、マリナー2号による金星の観測と同様なテストをしたところ「地球には酸素も生命もない」と報告したことがあります。しかしわれわれは地球に酸素も生命も存在することを知っています。私は

マリナー2号が実は一般に公表された情報とは全然逆の事実を発見していることを偶然に知りました(注。金星の表面温度が高温ではなくて実は低温であったというような事実)。この情報はマリナー計画に参加した一権威者から伝えられたものです。

ところが、いったいなぜ彼らが問題を混乱させるのかといえますと、それについては多くの理由があります。もし真相が実際に知られたならば科学者や世の中は早まってびっくりかえるような大騒ぎを始め、それにつれて多くの物事が大混乱をきたすからです。加うるにこの世界はあらゆる真相を受け入れるだけの準備ができていません。これは地球の観測装置がまだ発達の段階にあつてとても完全とはいえない状態にあるからです。もし人間の血液が金星上で高温のために沸騰するとすれば、なぜ政府は金星へ人間を着陸させようとして巨額の費用をつぎ込んでいたのでしょう。

進歩した知識を伝えようとするわれわれの運動にたいして、なぜ反対勢力は私にそれほどの対抗をしてくるのかという質問状をよくした人が多数ありました。この答えはきわめて簡単です。彼らは私が知っている事柄を恐れているからです。彼らは私が「空飛ぶ円盤同乗記」中に書いた情報を撤回させようとしてきました。彼らはその情報をボストンの或る科学者団の説に同調させようとしてきましたが私は拒絶しました。それ以来彼らの私にたいする対抗活動は激烈になっています。

私を殺してやるという脅迫とは別に、最近の或る攻撃で、彼らは私の協力者たちに応用してきたグッドゥー教と私とをかかり合ひにしようとしてきました。しかし有難いことに協力者たちはこんなことで私から離反しませんでしたし、私も彼らのおびやかしに屈

することもありませんでした。彼らの最近の策略についてここに一つの例があります。(ジエイムズ・W・モズリー編集の円盤ニイズから引用)「数か月前に一個のグッドゥー教人形が編集部に送られてきた。それを見ると、人形の心臓の部分に長い針が突き刺してあって、針には一枚の紙がつけてあり、それにはただ次のように書いてあるだけだった。……ジエイムズ・W・モズリーよ。この人形はジョージ・アダムスキからのものである。……しかしわれわれはだれか悪い奴がこのいたずらをしたのだらうと思つた。われわれが知っている限りでは、ジョージ・アダムスキはそんな不作法なことをするような人ではない」

長年のあいだこれと同様のことをする人がいて、そのために私の身辺にはかなりのトラブルが起こりました。彼らはサイレンスグループの最も大きな部分をなすもので、「世界秘密結社」という名前で知られています。これは世界で最も悪質な団体であつて、おそらくモズリー氏に人形を送った張本人だと思われまふ。意見こそ互いに異なりまふが、モズリー氏は私の友人であつて、私が卑しく屈服するような人間でないことを彼は知っています。屈服すれば私は現在やっている仕事に関連して私の名にあたいしない人間になりさがるからです。

このグループによってたぶらかされている人々を私は気の毒に思います。なぜなら「償いの法則」はその代償を要求するからです。グロリア・リーは知ってか知らずか彼らの餌食の一つになり、彼らの思いのままになりました。彼女は苦しんで死んでしまい、金銭はなんの益にもなりません。この記事を読まれる方々にたいする私の忠告は、もしなにかが気になつて仕方がなければ、

自分でそれから逃げ出しなさいということです。これは本人の考
え方を変えることによつてなされます。これをなすためには、人
は憎悪に満ちた、または復しゅう心に燃えたような想念のすべて
や不正な想念のすべてを避ける必要があります。こんな想念は秘
密結社が用いているキーなのです。いかなる種類の恐怖心が起こ
つてもそれを捨てなさい。なぜなら恐怖心は彼らグループが求め
ている人間の弱さであるからです。

彼らがつけ込む人間の恐怖の列をあげてみましょう。自分が他
人から不当にまたは誤解されて扱われていると感じる人の恐怖心、
彼らの悪い行為を認める恐怖心などがそれです。後者は自分が
不当に扱われたと感じるように仕向けてきた人たちにとってクサ
ビまたは扇動者としての役目をします。

それゆえこれらの印象に気をつけて、そんな印象が自分に来た
場合はそれを避けなさい。これはあなたがワナに落ち入らないよ
うにするためです。もしそのワナに落ちたならば、リーダーのと
ころへ行つてあなたの気持ちを話し、依然として敵のままの状態
であることをやめなければ筋道の立った理解力に達することはで
きないことを調べてごらんください。こんなふうにしてあなたは多
くの不愉快な状態を避けることができます。後の結果に苦し
むよりも公明正大であるほうがはるかによいのです。

私は遊星人たちとの協同による広汎な研究からちよつど帰つた
ばかりでして、これについては別な記事でお伝えするつもりです。
すべての計画がうまくゆけば、四月二十九日にヨーロッパへ出発
する予定で、そうなれば八ないし十週間ほど留守をすることにな
ります。

円盤問題における

心霊的な詐欺行為

第三部

C・A・ハニ

このシリーズにおいて先号の記事ではテレパシーによる質問の
件に答えて他の遊星の人間から来るものと思われているメッセー
ジに関して簡単な解説を試みました。テレパシーによつて知識を
得ること自体はならぬ誤りではありませんが、強調しなければな
らないのは、テレパシーで感受される印象類は他の遊星の住民ま
たは宇宙船内の遊星人から送られてくるのではないということです。

他の遊星の人間は地球上の人間と精神感応による通信をするこ
とはしません。地球の表面に住む地球人は、なにかの問題で質問
して実際に萬人にとつて有益だと思われる完全に信頼のおける回
答を得るのにテレパシーを駆使するほどに発達してはいないので
す。テレパシーを教えると称する指導者の殆どすべてが自分でそ
れを用いることはできませんし、しかもその応用について基本的
な原理さえも知ってはいませんが、アダムスキ氏によつて定義され
たテレパシーというのは印象類のすべての感受を意味しますが、
印象類の多くは望ましくない源泉から来るのであって、そのよう

なものが人間の発達に価値があると考えられてはいけません。

テレパシーの能力はいわゆる精神的な発達によるとは限りません。この地球上で最低の未開人でさえも、例の六通りの受信径路

(注。アダムスキ氏著「テレパシー」参照)の一つを通じておそろしいほどのテレパシーの能力を持っていることがあります。(

注。米国の或る地方の黒人やアフリカの奥地の蛮人のなかにテレパシーのすばらしい能力を持っている種族が存在することを編者

は世界を旅行した米人の一友人から聞いている)この能力を持つ人々は多くの人によってだいたい「霊媒的な素質を持つ人」と呼ばれていますが、私としてはむしろ「印象類にたいして敏感な人」といいたいところです。

この敏感な人の感受力は、想念ばかりでなく、本人の性質や既成概念に矛盾しない或る概念に同調しやすい程度に至っている本人の理解力と発達の段階に応じて決定されます。

例の三つの望ましい径路の一つから来る印象のテレパシクな感受は他の遊星の人間から送られる「メッセージ」ではなく、本人が突然に気づく「直感」または「感じ」以外の何物でもありません。この一例として先回の記事で述べた円盤写真の分析についても一度考えてみることにしましょう。

たぶん読者があの写真をごらんになればホンモノだと直感されるでしょう。読者の心にひょっこりとわき起こるこの最初の印象はまず正しいものといってよいでしょう。それは真実のテレパシクな印象であるかもしれませぬ。しかしそれは他人の心から発せられたものではありません。その写真がホンモノだという本人自身の内部の「感じ」または「知識」にすぎないのです。本人は

誤っているかもしれません。本人が正しいかまたは誤っているかはただ検証だけが決定します。そしてそれを検証する唯一の方法は写真中の円盤が突然急降下して撮影者に姿を見せたかどうかを調査することにあります。地球上に住んでいる宇宙人といえども円盤が実際に飛んだかどうかをたしかめるには円盤の乗員に会って聞きただす必要があります。さもなければ一般地球人と同様に彼らも確実なことは断言できないのです。つまり「あれは円盤だった」というテレパシーによる印象を宇宙人は得ることはできません。地球人と同様にやはり確証というものを必要とするのです。

一例をあげますと、あなたが一個の鉄のかたまりを持っていたとします。そしてその内部には中空の部分すなわち肉眼では絶対に見えない気泡があったとします。テレパシーに熟練した人は次のようにいふかもしれません。「この鉄のかたまりのなかには気泡がある」こうした感じまたは印象を受けることはあるでしょう。鉄は気泡を含んでいる人間に語りかける心というものを持ってはいません。エックス線の検査だけによってその印象が確認できません。そこでもしエックス線写真が鉄の内部に気泡があることを発見したならば、それは真実のテレパシー例だということになります。けれども、しかし人間同志の心から心への伝達ではありません。あなたが何物かをしたり、または何物かについて疑問をもつときにこうした印象を得ることは全く正しいことです。誤りといえるのは、その「回答」が宇宙人または高級霊から来るのだと信ずることにあります。こんなことを信ずるならば本人はとり返しのかぬトラブルに向かっていることになります。

かりに宇宙人があなたに或るアイデアまたは知識を印象づけることにきめておきます。あなたが一〇〇パーセント正しい印象を得るならば、それは突然心中にひょこりと浮かび上がる「予感」または「感じ」としてのみそれに気づくようになりますが、その場合にもその印象を「メッセージ」と考えてはいけません。むしろ自分が「何かをしなければならぬのだ」という感じを持つたのだとみなすべきです。こうした印象に従うことを身につければつけるほど、ますます印象は容易にあなたへ来るようになります。すると時が過ぎるにつれて次々と確認すべき物が現われてくるでしょう。

いわゆる「メッセージ」なるものが宇宙人または高級霊から来るのではないとすれば、それは実際にはどこから来るのでしょうか。大きな研究団体（複数）は彼らが霊界または他の遊星からテレパシーによってコンタクト（注・連絡）しているという盲想におちいっています。グロリア・リーは他の遊星からテレパシーによって自分へメッセージが送られて来るのだと確信したために、そのメッセージの内容に服することによって生命を失いました。ジョージ・キングの「霊化協会」はこうしたメッセージにもとづいてつくられたのですが、その内容の殆どは誤ったものです。

われわれが気づかねばならない一つの法則は「親和の法則」です。この法則は「類は類を呼ぶ」という簡潔な言葉で自然の吸引の現象を表現しています。一個人によって表現される想念をかたちづくるエネルギーは、類似した性質の想念をかたちづくるエネルギーのほうへ引きよせられます。こんなふうにして幻想的な知識の巨大な貯蔵庫が建設されていて、類似した考え方をもちやす

い人の感受性という入口が開くのを待っています。この意味からすれば私は霊界なるものが存在するということは確言することができます。（注・ハニー氏のいう霊界は靈魂の住む世界ではなくて、想念群が貯えられた世界を意味する。）それはこの地上の無数の人間の心によって表現された考え方や想念の蓄積として存在するのです。人間が作り出したアシユター、モンカ（注・仮空の宇宙人名）や「霊化協会」にかかってくる高級霊などはすべてこの貯蔵庫から出て来るのであって、その他にもサナダとかラマ・デスカなど多くの仮空のメッセージ放送者がいますが、これらは真実の人間ではなくて、人間の心の創造物なのであり、右に述べた巨大な幻想貯蔵庫のなかに存在しているのです。

多くの自称コンタクトマン（注・宇宙人から連絡を受けたと称する人）はこの貯蔵庫からパイプを引いているのであって、それを自身の目的に利用しています。彼らは世界中にすでに混乱をひき起こしている多くの他のコンタクトマンに同調するために新しい想念をつくり出していきます。多数のインテキナコンタクト例は或る心靈団体によって演じられていて、これがまじめではあるけれどもたぶらかされた人たちがまっ正直に「自分たちはまじめなのだ」と信じやすい一つの理由となっています。彼らはたんに自分たちに起こった出来事を次々と語っているにすぎないのですが、しかし私たちの運動にたいする反対派によって計画されるインテキナコンタクトにだまされているということに気づいていません。殆どすべての心靈研究団体には指導霊がついていて、それが「黙示」または「靈感」によって彼らに知識を与えると考えられています。が、いうまでもなくかかる靈感も右に述べたのと同じ知識

の貯蔵庫から来ます。

また各種の刊行物のなかに出てくるいい加減な宇宙人情報には別な源泉が存在しています。故グロリアマリヤジ・ジョ・キングによってとなえられた恍惚状態におちいる霊媒も、多年にわたる読書、研究、思索、他人との接触にもとづいた彼らの潜在意識によって蓄積された知識の貯蔵庫からパイプを引いています。そうした著書の殆どは明らかに靈感的な性質の文章を含んでおり、またキリストや他の偉大な導師に關連した宗教的なまがいのもの文章も含んでいます。そして恐怖や警告や予言類を伝えていきます。

こうした著書にときとして出て来るホンモノじみた知識はかつてアダムスキ氏が講演や刊行物で述べた知識の焼き直しです。それ以外の個所は彼らの潜在意識かまたは右に述べた想念群の貯蔵庫から出て来るのです。

真実の宇宙人の活動にたいして積極的に対抗するために心靈的な力を利用して人間とはだれでしようか？ 例の「黒服の三人組」はこのグループの一味です。サイレンスグループのこの分野におけるリーダーたちは熟達した心靈術師であり催眠術師でもあります。そして三人どころではなく多数存在しています。彼らは互いの能力を増強するために通常二名ないし三名のグループを組んで行動しています。

彼らが他人に術をかけようとする場合は、二、三の接近方法のどれかを用います。最上の方法は狙った相手を恐れさせることにあります。これは相手の心をコントロールするのが一そう容易となり、各種の方法で相手を感らうするのがさらに楽になるからです。いかなる方法でこれがなされるかを説明するために、私自身

の定義でもって「メズマリズム（注。動物磁気催眠術）」という言葉を使っています。さらにこれを私は「精神エネルギーの放射」によって個人の潜在意識に影響を与える「遠隔催眠術」と名付けています。これはいわゆる「幽体飛行」の応用によってなされるのであって、狙われた相手のいる場所へ向かって行く霊媒の意識の放射を意味します。

この方法によって狙われた本人は、自分のいる場所に「放射されたエネルギー」が存在していることに気づくかもしれませんが、気づかないかもしれません。これは多分に本人の感受力と放射した霊媒の能力いかんにかかっています。狙われた本人のいる場所にこのエネルギーが存在することを説明するのに最もよい方法は幽体飛行者の意識を含んでいる集中化されたエネルギーの「束」としてそれを考えてみることです。それは本来電磁氣的なものと考えられるのであって、このようなものが電磁力の吸引と反発の法則によって他人に影響を与えることのできるのです。

狙われた犠牲者（たとえばベンダーのような人）は、そのエネルギーの存在を感じるかもしれませんが、相手を恐れさせたりあやつったりしようとして、心靈術師は相手に悪臭をかかせたり、声を聴かせたり、本人を引っぱる目に見えない力を感じさせたり、その他これに似たような物事を体験させたりします。ところが疑問となるのは、いったいどんなふうにしてこんなことがやれるのかということですが、答えはきわめて簡単で、読者には容易に明白になるでしょう。

私はかつて「夢の構造」について述べたことがあります。一般

人は夢の構造やその働きなどを知らないで生き生きとした夢を見るのであって、夢のなかでわれわれは声を聴いたり、物を見たり、人々に話しかけたり、からだか地上を離れて空間をただよったり飛んだりします。夢のなかでわれわれがなし得る物事に制限はありません。こうした夢をひき起こすものがなんであっても私は、夢の構造と呼んでいます。あなたが目覚めているあいだにもし何かの力がこの夢の構造を刺激して働かせるのであるとすれば、眠っているときと同様に目覚めていてもあなたは目に見えるかまたは耳に聴こえる幻覚を体験するでしょう。

また何かの精神的な動揺が人間に声を聴かせたり幻覚を見せたりすることがあって、それらは心という病院のなかでショック療法を受けながら静まってゆきます。この他にもこれと同じような体験を持つ人がたくさんいますが、精神的な問題を原因とし、ないで右の如き現象が起こる場合もあります。その現象は地球上で広範囲にわたって暗躍している心靈グループのメンバーたちによって（靈魂ではなくて人間によって）ひき起こされているのであって、彼らは前に述べた方法を用いることによって狙われた本人の夢の機構に影響を与え刺激するのです。その体験は犠牲者にとっては全く現実的なものです。このゲームの或る段階においては敵は個人的に姿を現わし、ペンダーの場合と同様に体験が起こり始めますが、殆どの例においてはサイレンスグループが個人的に姿を見せることは不必要なのであって、あらゆる現象は彼らの精神的な影響力によって達成されます。

第四部

この連載記事でこれまで述べてきたサイレンスグループの影響を人はどんなふうにして防げばよいでしょうか。まず最もハッキリしていることは、「自己催眠術または定期的な催眠術によってあなたの霊力がたかまるように指導してあげよう」と宣伝する個人または団体を避けるようにすることです。

われわれは次のような広告をよく見かけます。「あなたの霊性を開発したいとは思いませんか」「急速に霊媒の能力がつきまします」「あなたの第三の目（魂の目）を開きなさい」「催眠術の秘法があなたのものになります」等々。

しかし殆どすべてのこうした団体は自己催眠術を教えているのであり、それを精神科学と呼んでいます。つまり本人は幻覚を体験することを教えられるのであって、本人はそれが真実だと信じています。要するに自分で自分をあざむくことを教えられます。例をあげてみましょう。入門者はヨガの行者のような姿勢をとることを教えられて、だれかが熱い油を本人の背中へ流しかけている状態を想像させられます。そして本人はそれに精神を集中させてそれが真実だと想像し続けます。これを続けているとやがて本人は実際に熱い油が背中を流れ落ちていくかのように感じます。すると「あなたは実際に進歩しつつあるのだ」と教師も聞かされるのです。

さらに行法を続けているうちに、本人はこの自己催眠術による恍惚状態を意のままにつくり出すことができるようになります。またこの練習をやっていると、本人は意のままに自分が自分の肉体を離れることができるという幻覚を体験するように教えられ、催眠術師がいつている「幽体飛行」なるものによって空間をさま

よいかの如き感じを起こすように指導されます。しかしこれは真実の空間飛行ではなくて、そのニセモノにすぎません。多くの宇宙人や進化した人類は正しい幽体飛行を行なうことができます。なかには意のままにこれを行なう人もありますし、無意識に行なう人もあります。この進化した人々の場合は実際に自分の意識の一部を物質の肉体のカラから外へ引き出すのであって、その状態で遠方の出来事を見るのです。しかし前記の精神科学の研究者は自己催眠術を用いて自分の感覚器官をごまかすことによつて右の状態をまねることを教えられるだけです。その場合は恍惚状態による幻覚なのです。宇宙人によつて体験される真実の遠隔透視は恍惚状態やいかなる種類の自己催眠術とも関係はありません。この進化した人々は自分がかの仕事をしながら、しかもその仕事を全然やめないで遠隔透視を行なうことができるのです。

これについては「動機」というものが真実の回答になります。なぜならばサイレンスグループの心霊的な分子は広範囲にわたつて「ほんとうの遠隔連絡法」を用いているからです。しかし彼らは望まない目的にこれを応用しています。これでもってきわめてハッキリしてきているのは、このいわゆる「霊能力」なるものの発達は一般でよくいわれている「人格」とか「精神的」発達とは殆ど関係はないということです。

多くの人々は「精神的な発達」を望むばかりにこころした心霊上の行法をだまされてやっています。一つの事例をここでハッキリさせておきましょう。いわゆる個人の精神的な発達はいかなる種類の霊的能力とも関係はありませんし、また膏汁ばかりを飲んで肉を食べなかつたりすることとも関係は

菜食主義者である必要はありませんし、タバコや酒などもやめる必要はありません。萬物においては中庸ということがすぐれた生き方にたいする正しい道であるというののもうわかりきったことではありませんか。他人にたいして立派な態度でのぞもうという見地からのみ考えれば、この中絶が望ましいことです。

サイレンスグループの心霊力があなたのほうへ向けられて、それが次第に強烈になってきた場合に、あなたはどうしますか。あなたのために最大なる最大の武器は、かかる霊力の源泉に關するあなたの知識です。以前にたびたび述べましたように、多くの氣味わるい出来事の主な目的は恐怖と心の不安を起こさせることにありますので、あなたが理解力を持っていればならんら恐れる理由はないことがわかり、恐怖心を起こすかわりに「面とむかつて笑いとぼす」ことができるのです。こうした精神的な対抗は相手の目的を挫折させて、逆に相手をはるかに大きな痛手をこうむることになるでしょう。

かりにあなたが悪いと思つている物事をやれとささやく声を自分で聴くとしても、今日多くの殺し屋は「神が殺せと命じた」と称したり、「或る声がそれをやれと命じた」などといっています。多くの秘教団体や宗教のリーダーなどもこうした本論から得た「暗示」だと称しています。或る声が「アダムスキの書物やニューズレターを焼いてしまえ」とあなたに命じたとしましょう。明らかにこれは心霊グループの存在にとつて邪魔になるような影響（注。真実のコンタクト）からあなたをそらせようとしてなされま

す。彼らは、彼ら自身を排除したり彼らの影響力と戦つたりする方法についてあなたに平兒してもらいたくないわけですよ。

あなたは次と同様な方法で対抗することによってこの声を打ち返しなさい。「これらの書物を焼けと命じるおまえの正体はいったい何であるか。おまえが私の生活を支配するのではありません。私が私自身の運命を支配するのだ。私は自分で望むことを好きなときに読んだり研究したりする。私にむかって物事をなせと命じたりする天使も悪魔も私には必要ない―あなた自身の意志を働かせて押し返すことです。必要とあらば怒りなさい。そうすれば何物もあなたを打ち負かすことはできないでしょう。

いいかえれば、こうしたサイレンスグループの影響力をあなたも一人の生きた人間を相手にしてねじ伏せたり叩きのめしたりするように扱うことです。あなたは自身の理解力にしたがって自分の生活を自分で支配しなさい。私個人の考えとしては（注。ハニ1氏の考えとしては）人間はだれも自分自身で物事を決めるべきであって、自分の信念や主義に反すると思われることをやったりしてはいけないと思います。たとえ「やりなさい」というすめが大陽系内の最高の人間からあったにしてもです。第一、相手の宇宙人が正しいということがどうしてわかりますか？ 別な宇宙人たちはこれとは違う意見を持っているかもしれません。

或るコンタクトマン（注。宇宙人に会ったと称する人）についてそれがホンモノかそれともイカサマ師か教えてくれと行って私宛に手紙をよこされた方があります。それにたいして私は「本人の最初の体験はあるいはホンモノだったかもしれないが、その後の本人のいつていることは信用できない。あとの体験なるものはホンモノだとは思えない」と答えたことがあります。この理由の一つは、コンタクトマンというものはサイレンスグループの大き

な圧力に屈しやすいのであって、このグループは本人をさまざまな方法で攻撃するからといることにあります。

多数のコンタクトマンは催眠現象に巻き込まれていて、これに深入りしています。また「金銭」の誘惑に屈服している人もあって、大衆の目をひきつけておくために自分の実際の体験に手を加えて宇宙人との会見記を創作し始めます。また多くのコンタクトマンは最初から全くのペテン師なのであって、金のために人々をだまし続けているのですが、その金は素朴な人たちからまぎあげるわけです。なかにはサイレンスグループによって仕掛けられた催眠術による「仮空のコンタクト」を体験していて自分たちがだまされていることに気づかない場合もあります。

人々のなかにはこれまでの知識からして心から心への意志伝達（注。テレパシー）は不可能かまたはそうした現象はインチキなのだと考えている人があるかもしれません。しかし実際にはテレパシー現象は存在するのです。心から心への意志伝達は多くの人によってきわめて容易に行なわれています。サイレンスグループも人々をたぶらかすために一種のテレパシーを応用していますし、一般地球人のセンスマインド（注。感覚器官の心）はあらゆる物事をひどくゆがめますので、宇宙人はテレパシーを用いて地球人に連絡することはできません。宇宙人は彼ら同志のあいだでテレパシーを用いるかもしれませんが、地球人に接触する場合はテレパシーを避けることをずっとむかし知ったのです。

宇宙人は地球へ向けて絶えず想念を放送し続けていますが、これはテレパシーで連絡することではありません。われわれがテレパシーに熟達していれば放送者の能力いかにかわらず相手の

想念に同調することはできません。テレパシーの上手な人は意識的に想念を放送しようとする人がいなくても、もろもろの印象をとらえることができるのです。

テレパシー研究の初歩者が、突然、思いがけなく殆んど耳に聴きとれるような強烈なハッキリとした印象を現実にご感受した場合それは本人にとって非常な驚きとなります。こうした人たちが宇宙人は霊媒を用いて通信するのだという考えにとらわれたならば、本人は通常自分がコンタクトされている、新たにコンタクトの実例が発生しつつあるのだと思いがちです。これはすぐそばに交霊用のヘルパーがいる場合特にそうです。

多数の人がこんな方法でまどわされている理由の一つは、「自分の体験は他人のすべての体験とは異なるものなので、これはきつとホンモノの宇宙人通信かまたは他の遊星から来るのだ」と本人が考えることにあります。体験そのものは本人にとって現実に起こった出来事なのですが、それは真実の宇宙人から来るものではありません。

人間の心の動きやテレパシー現象の例の六つの径路に関して一般大衆が全く無知であるからこそ、サイレンスグループの催眠術師たちは現在のような強固な足場を得て多数の人をコントロールすることができたのです。

次のことを直視することにしませう。人々は迷信的になるように育てられています。自分で理解できないものはすべて超自然的なもの、幽霊、女魔法使い、邪神、悪魔、天使、または神々のせいになります。それが望ましくない体験であるならば悪魔のせいにし、望ましい体験であるならば神か天使の行為とします。

こうした人たちは霊界から地上の運命を導いている高級霊なるものをきわめて容易に信じやすくなります。心霊上のイカサマ師は人々のこうした信念を充分に利用して存分に恐ろうしています。犠牲者から金や知識などを絞り取ってしまつた後は、本人を精神病院へ投げ込むか、少なくとも「気が狂つた」というらく印を押しつけてしまいます。社会の改善にとってよき影響を与えるような体験である限り、巧みに本人を「勝算なし」の立場においてしまふのです。

目下地球上で展開されている宇宙人の活動はだいぶむかしから計画されたもので、したがって反対勢力も長い期間にかなり発達してきています。同様に現在行なわれている諸計画は未来の数百年にわたるでしょう。これが真実の宇宙人によって古代の予言者たちに与えられた知識が今日きわめて正確に実現している理由です。これはまた、聖書の予言というものはそれを理解するための正しいキーが存在しているかどうかにかかっているという理由にもなります。

長い時代を通じて一定の道を歩んできた人間の足どりを導くために多数の教師が出現してきました。しかし彼らの死後その教えをひろめようとする団体は、発達するのに長い期間を経た反対勢力によって打ち破られました。このよい例はイエスによって始められた活動です。この活動は後になってゆがめられてしまい、数千年間も行なわれていた秘教の教えのすべてを含んでしまいました。このことは別掲の宗教の起源に関する記事で詳細に述べてあります。

別な例をあげますと、宗教の指導者によって行なわれる「魔よ

けの祈禱」は、以上の出来事の背後にひそむ心靈上の勢力との戦い方を示すものです。受け入れるかどうかについては選択の自由がありますが、「見えない実体」がわれわれと共存することは正しさの積極的な否定です。ことわざにもいっています。「対抗するならば悪魔はあなたから逃げ出すだろう」

この時代の最後の数年間は心靈勢力による激烈な活動が展開すると思つてよいでしょう。一般大衆も目覚め始めているといつて反対勢力が恐ろしい戦いをやめてしまうと考へてはいけません。これからの十二か月間、円盤研究界を注意深く見ていて下さい。読者は大きな驚きを体験されるでしょう。(完)

(二十二ページより続く)

生命が存在し、そのなかには地球人をはるかに凌駕する人類もいると信じている。彼はまた、どこかの文明が地球の現段階に達するとき、その人類は数十年で自滅するか―核戦争か他の理由で―または戦争なしに存在することを学ぶのであると信じている。後者の場合、このように進歩した人類は必然的に宇宙を探検するようになり、これまで地球を訪問してきたと思われるのはこうした人類だといっている。

昨年八月の月探險会議でケアリフオーニア大学の宇宙飛行科学部を代表して博士は月の表面の内部にも有機体の生命が存在するかもしれないと述べた。また彼は月ミサイルはこの生命を窺見するチャンスを失わせるかもしれないと米ソに警告した。前もつて彼は巨大な遊星である木星にも生命が存在するかもしれないといつたが、われわれが知っているような生命であるとはほのめかさなかつた。

ウィーンからの便り

ウィーンのGAPリーダーであるドラ・パウエル女史から六月一日付で来た報告によりますと、アダムスキ氏の第二回目のヨーロッパ旅行で各地へ同行したドラは去る五月二十四日にスイスのバーゼルでア氏とともに宇宙人に会つたということです。次は彼女の手紙の一節です。「私のすばらしい体験はバーゼルで発生しました。ア氏のホテルの食堂は小さな部屋でしたが、テーブルは三つありました。その夜そこへ二人の宇宙人が現われました。一人はアメリカ・インディアンのように見えるすばらしくきれいな顔をした青年で、私たちの会話に英語で一言だけ口を入れました。するとそのあと一人の少女がテーブルについて私の真向かいに座り、微笑しながら一同の声に耳をかたむけていました。そのうち急に彼女は私を見つめてあたたかいまなざしでにっこりと笑いましたので、私はテレパシでもつて―あなたは他の遊星から来た人ですか?―と尋ねましたら彼女は無言のまま二度ばかりやさしくうなずきました。そして翌日ア氏はこの二人が宇宙人であったことを確証しました。二日後に食堂でまた別なきわめて美しい若い婦人が私のとなりになつて一同の会話をたいそう熱心に聞いていました。或る話は特に面白かつたらしく彼女は愉快そうに笑いましたが、話題が宇宙問題から別な事柄にかわつたとき彼女は出て行きました。この人も宇宙人であつたことが後になってわかりました」以上のほかにア氏が今回のヨーロッパ旅行で歩く先々に宇宙人が出現したことをドラは詳細に報じています。なおデンマークでの講演会は大成功であつたということです。(編者)

質 疑 応 答

G・A・ハニ

問 1 古今の円盤目撃体験において共通している特徴は、目撃者が硫黄のようなにおいをかいだという点です。その理由を説明して下さい。(アーカンソー州ブラマヴィル、L・F)

答 たしかに円盤を近くで目撃したという多数の実例において悪臭をかいだという例が報告されてきました。多くの場合それは硫黄というよりもむしろ強烈な、にがい、鋭いにおいであるといわれています。たいていの場合、それは円盤のいたあたりの大気のイオン化によってつくり出されたガスのせいだということができます。オゾンとは適当な電気の放電によってつくり出されたガスの好例です。心靈グループのメンタル・コンタクトと関連のある事件の多くはその際に硫黄のようなにおいを発生させます。このことについては別掲記事で説明してあります。私が指摘したいのはインチキという言葉は、表面は存在しないように見える或る出来事が発生しつづつあるという意味で用いられているということです。かくてそれらはインチキなのですが、こうした事件を起こす人々は自分たちの行為のイカサマ性に気づいているかもしれないし、気づいていないかもしれません。いいかえれば彼らは世界中で行なわれている巨大なチェス・ゲームのコマとして利用されている

だまされやすい人なのです。

問 2 宇宙人は個人の過去の生活についてそれを正確に読みとる力を個人に与える能力を持っていますか。(右に同じ)

答 あなたがこの質問を出された理由はわかりません。次にお答えしましょう。宇宙人のなかにはこの地上に住んでいる多数の人々の過去の生活について知っているものもいます。たとえば、彼ら宇宙人は「彼ら自身の一人」である、生まれかわった或る特殊な地球人のさまざまな生活を密接に追求しているかもしれないし、それによって現代の地球上の運命を切り抜かせられているかもしれない。

あなたがいわゆるリーディング(過去の生活を読みとること)に関する限り、これは私がついてゆけないものです。私にとってはそれは他人の頭のコブを見分けるのと同じことです。たしかに人々のなかには何かの物または人間から印象を受けとる能力を持つ人がいます。イカサマや金もうけ的な動機が存在しない限り、これは別に悪いことではありません。

あなたの過去の生活に関してそれを伝えてくれる宇宙人または他のだれかについては、たとえその人たちが伝えたがったとしても私はそれを好ましいことだとは思いません。あなたの過去の生活について事実を知ることがあなたを現世における進歩から妨げるにすぎないでしょう。私の考えでは、かかるリーディングを望むことは賢明ではないでしょう。次に、宇宙人があなたに過去の生活を知らせてくれたにしても、そのリーディングが真実であることを証明する方法をあなたは持たないでしょう。これが宇宙人が地球人のあいだに来て直接に情報を与えることのできない理由

の一つです。服装という点からしても、だれが彼らを宇宙人だと信ずるでしょう。

問 3 無重力状態は近くの宇宙空間にのみ見られる現象ですか。遠い宇宙空間にも重力はあるのですか。(右に同じ)

答 重力は宇宙空間のどこにも存在します。あなたはその影響からのがれることはできません。地球の宇宙飛行士が無重力状態になる理由は、彼らが軌道に乗っているときに実際には「自由な落下」状態になるためです。あなたがエレベーターの中においてあるハカリの上に立ってあれば同じことを体験するでしょう。あなたもハカリもエレベーターもみな一緒に落下するのです。エレベーターのシャフトが数マイルの長さがあるとすれば、あなたは自由落下して行くのであって、そのときハカリを見ていればあなたは無重力状態になっていることがわかるでしょう。あなたが落下するのと同じスピードでハカリもあなたとは別に落下します。あなたはその上にいかなる重みをもかけることはできません。宇宙飛行士によって体験される無重力状態というのはそれだけのことで、飛行士やそのカプセルは地球の周囲を自由に落下する状態にあります。それらが地球に向かって落下するにつれて地球もそれとは別に落下する状態にあるのです。

もし飛行中にエンジンの活動によって加速されるならば飛行士は重力を体験します。アインシュタインの相対性原理にはいわゆる等価値の原理に関する説明があります。素人の言葉でいいますと、引力の効果と加速の効果は等しくて切り離しては語れないということです。アインシュタインによれば、一般にいわれている説のよう

ような一物体の他の物体にたいする吸引力によってひき寄せられる重力というものは存在しないということです。

問 4 (アダムスキ氏にたいする質問) 質問状にたいしてすぐに返事をいただけませんか。

答 (アダムスキ氏より) 人々はやたらに私から回答を求めたがっているように思われます。その結果、ぼろ大な数の手紙が殺到して返事を書く余裕がありません。そのうち各手紙に返事を差し上げましょう。

問 5 あなたが取り次いでおられる書物のリストのなかには疑わしいものがあります。(注。ハニー氏は読者の一般教養を高めるために多くの科学書や思想書を取り次ぎ頒布している) 宇宙人から伝えられる新しい知識に従えば、地球人の思想や書物は改訂される必要が起こってきます。私たちの学問の殆どは学びなおされねばならないことになりました。それらの書物のなかに書いてあることが正しいかどうかを知るために「あなたはそれらの書物の内容のすべてを知っていますか」と尋ねるのは無理でしょうか。もしあの書籍類を(宇宙人に従えば誤っているかもしれない書物を)研究したとすれば誤った道を進むことになり、未来の知識や説明は吸収されないことになりはしないでしょうか。(英国、ハ

イツ、J・R夫人)

答 私は自分で取り次いでいる書籍のすべてをまだ読んではいません。いま一生懸命に読んでいますし、まもなく読了したいと思っています。私は普通の書物を一、二時間で読み、その内容を吸収することができまので、これはさほどの大仕事ではありません。加うるに私は現在のGAPの仕事に入る前にこれらの書物の

大部分を読んでいます。

私が或る書物をおすすめる場合、その内容のすべてが一〇〇パーセント正しいというわけではありません。多くの書物は時代遅れで誤った科学的な理論を伝えていきます。また、別な遊星に生命が存在することは不可能だといっている書物もあります。しかしわれわれは進歩した理論を学んだりする前にまず基礎のABCから始める必要があります。そしてついには過ぎ去った学説の少なくとも一部をマスターする必要があります。代数や微積分などを学ぶ前に算数の加法や減法を学ぶ必要があるのです。

各種の書物に述べてある材料の大部分は正しいのですけれども、重要なことは、たとえすべての考え方や意見があなたの考え方と異なっているにしても、それら全部を読んだり研究したりすることです。そうすればあなたは別な説をとる人たちを一そうよく理解できるようになります。私が或る誤った説をよく知らなかったらそれのために効果的な議論を出すことはできません。あなたが或るテーマを検討したい場合、すべての意見を知れば知るほどあなたはますますそれから離れるようになるでしょう。

各人は新しい考え方を認めたり自身の誤りを認めたりするほどのオープン・マインドを持つべきです。また、各人は自分がいかに進歩しているにもかかなく多くを学んでも、古い信念を捨てるために常に進歩した考えや発見が現われてくるということに気づかねばなりません。このことは宇宙人にとっても重要でず。彼らも日々新しい物事を学んでいるのです。

問 6 或る人が次のようにいいました。「遠隔透視現象の事実を否定する人は懷疑論者とさえ呼ばれる資格はない。本人はただ

無知なのだ」私はシル神父が「少数の病的な人だけが生まれかわりを信ずるのだ」といっているのを読んだときに右の言葉を思い出します。シル神父は西半球の多数のすぐれた人々が生まれかわり説を信じている事実を知らないにちがありません。また、ヘッドと克蘭ストンの著書「生まれかわり、東西名言集」は生まれかわりを信じている人々の弱い心について無責任な放言をする人たちの必読の書であることをつけ加えたいと思います。私の叔父と母はあなたのニューズレターを熱読していますし、あなたはたいそう価値のある教育的な仕事をしておられると私は思います。あなたのお仕事に多くの人が興味をもてばうれしく存じます。(ハリウッド、ジーナ・セルミナラ)

答 (以下は紹介)セルミナラ博士は申し分なく説明しています。私は次の言葉以外にこれ以上注釈を加える必要はありません。すなわち、彼女の(セルミナラ博士の)すばらしい著書「多くの魂とその中の世界」のあとに「多くの生命、多くの愛」と題された書物が続いて出ていますが、この書物は生まれかわりと超心理学の分野における最近の発達を解説しています。国際的な名声を博しているオランダ人のピーター・フルコスやその他現代の現存する心靈家に関する報告をセルミナラ博士が書いておられることは、エドガー・ケイシーの死を嘆いている人たちにとって大きな興味を呼び起こすでしょう。

この書にはさらに或る高名な精神病学者の過去世に関する調査結果が載せられていますし、また現代の混乱にたいする重要な中和物として一般意味論の方法論をも扱っています。同じほどに興味ある部分は、心靈研究の限界とその落とし穴及び透視と生まれ

かわりについでにの極端な盲信の危険性を述べた章です。セ博士によつて先に紹介された「生まれかわり、東西名言集」は世界の宗教の輪廻説を解説していて、そのなかにはユダヤ教、イスラム教、ヒンドゥー教、道教、禪などが含まれています。

問 7 いくつかあなたのニューズレターで宇宙人との協力に関する傍証を公表するということでしたが、いつ、どんな方法でそれを発表されますか。(ノールウェイ、W・N)

答 ひとつということははいえませんが、次号かもわかりませんが、五年先になるかもしれません。いつ発表するかについては私が決定者ではないのです。この傍証というのはこれまでに全然発表されたことのない新しいすぐれた写真類です。それは私がいえない性質をおびています。私の回答はいたずらにミステリーを促進するためになされるのではなく、諸計画を反対勢力から私しておくためにそのようにお答えすることが必要なのです。

問 8 円盤が米国の飛行場で政府関係者の眼前に着陸したというような例を知っていますか。(右に同じ)

答 知っています。しかし残念ながらそれが発生したという事実を私は証明することができません。私がかかりにその証拠を出したところで官憲によつて否定されて、私はウソつきだということにされるだけでしょう。同様の理由で、多くの事件が発生していても公表されないうままに終わっています。

問 9 航空機やその乗員が突然に消えうせて跡を全然残さないという例をどのように説明しますか。(右に同じ)

答 私は多くの実例を解くことはできませんが、円盤に関係のある少数の例を知っています。これは地球人のあいだにまぎって飛

行士として働いて生活している宇宙人が自分の遊星へ帰ってしまつた場合に起こる現象です。別な例では、地球のパイロットたちが宇宙人と一緒に彼らの遊星へ行つて来る選抜権を与えられている場合に発生します。こうした場合は、パイロットが再び地球へ帰ってきて(特に燃料が切れてからだいたい後になって帰って来て)自分が長くいた遊星のことを話したりして気違いの汚名を受けるよりも、むしろ行きぎりに行ってしまふことを本人は選びます。

問 10 地球の科学者で円盤と同じタイプの推進機関を持つ円盤の製作に成功したという例を知っていますか。(右に同じ)

答 知っています。私は同じようなタイプの推進機関をとりつけた円盤型の宇宙船を開発した或る研究所の所長に会つたことがあります。しかしこの製作計画は極秘にされています。目下これに関する情報を漏らすわけにゆかないのです。

問 11 いつぞやあなたはまじめな研究者のために通信講座を出す旨を述べられました。その計画を捨てたのですか。(カナダ、オンタリオ、R・T・ゴルト)

答 いいえ、捨ててはいません。ただそれを編さんするための時間と金がなかつたのです。私は宇宙哲学とテレパシーに関するアダムスキ氏の書物類の索引を持っています。やはり出版するだけの時間と金がありません。いまのところ私はこのGAPの仕事に全時間をついやすことができませんので、仕事についてゆくの困難に思っています。いつかは仕事に全時間をささげたいと思つていますが、現在はあらゆる物事がゆっくりと行なわれる必要があるのです。私はまた一九六二年度の年鑑を発行したいのですが、やはり時間的な余裕がありません。

○ すべてが計画どおりにゆけば、アダムスキ氏はスカンディナヴィアの各国とスペインを含むヨーロッパ各地へ向かって四月二十九日に出発します。それで五月五日から約八ないし十週間私はアダムスキ氏にかわって日曜日の定期講演を行なうことにしています。これは五月五日の午後一時三十分から始めてア氏が帰るまで二週間一度開く予定です。

○ 近ごろの私のニューズレターに掲載される記事に変化があることに読者は気づかれたことと思います。年月は急速に過ぎて行って、われわれは長いあいだ働いてきた目的に次第に近づいています。反対派がますます攻勢的になるにつれて私もそれに対抗してゆくつもりです。いままでに隠されていた物事は明らかにされてくるでしょう。

過去数か月間に載せられた記事は、われわれの運動において後必要とされたポイントにまで前進しなかった人々を隊列から排除するために書かれました。それでも私の新しい編集は予想以上に好評を博しています。われわれはいわば枯れ木（やっかい者）を排除してきましたし、運動に協力する人たちの才能を高めています。深い理解力と広い生命観とを持っている人だけが、われわれの運動のために積極的に活動する能力を持つでしょう。

○ マリナー2号とその新発見に関して私が準備した記事につい

て少々注釈を加えておきたいと思えます。マリナー2号の件を報導した記者の殆どは、マリナーが発見した新事実について全く無知であるかまたはわざと事実を無視しようとしたことを示しています。第一、一九五九年に行なわれた高空気球の観測報告は完全に忘れ去られたかまたは無視されてきました。

一九五九年に米海軍のマルコム・D・ロス中佐とマサチューセッツ、ケンブリッジのチャールズ・B・ムーア博士は、地球の上空と同じ高度において金星には三倍ないし五倍の水蒸気が存在することを発見しました。マリナーはこのことを観測するのに失敗し、その装置が不完全であったことを示したのですが、実は一般にたいして誤った概念を与えるためにその筋の情報が巧みに隠されています。金星の大気圏の上層部に多量の水蒸気が存在していることをいまだに否定する科学者はおよそ科学者と呼ばれる資格はありません。（ジョンズ・ホプキンス大学の報告を参照）

最近行なわれた火星観測気球について何らかのすばらしい情報が入り次第に、その新発見に関する記事を載せるつもりです。その気球が火星上に水蒸気が存在する事実を発見したことをわれわれはすでに知っています。

○ ところで新事実を次にお知らせしましょう。アダムスキ氏から送られてきた報告によりますと、氏はマリナー2号の発射計画に参加した首脳部の一人に会いましたが、その人が氏に語ったところによりますと、一般向きに発表された報導はマリナー2号が実際に発見した事実とは完全に異なる虚偽の発表であったということです。（注。今年二月二十六日に行なわれた米航空宇宙局の発表によれば、金星の表面温度はセ氏四百三十度前後の高温であ

ることが判明したので、これではいかなる生物の生存にも適さないということになっていた)

◎ 五月十日、十一日、十二日に私はサンフランシスコの次の場所「講演旅行に行きます。「婦人会館」(十日午後八時。主催。サンフランシスコ宇宙研究会。会長アンゲラ・キルズビー夫人)「オー克蘭ド聖まるコホテル」(十一日午後八時。主催。オー克蘭ド円盤研究会。会長デラ・ライズン師)五月十二日にサクラメントで講演会を開くかどうかはまだわかりません。計画をしておくべきでしたが、機関誌の原稿締切りまでに連絡がありませんでした。サクラメント地区の読者はサンフランシスコ宇宙研究会へ照会してみてください。

◎ 最近ニューヨークの宇宙研究団体「スターライト・フェロウシップ」から「スターライト・メッセンジャー」と題する小冊子を受け取りました。このなかにテレビパシーによって受信されたと考えられている宇宙人メッセンジャーなるものが載せてありますが、これは実際にはトランス(注。恍惚状態)を用いることによって霊媒の潜在意識から来るものです。その内容はご自分で判断してみてください。この最初のメッセンジャーには「主イエス」と署名してあり、次のメッセンジャーには「ソラルノ」と称する宇宙人から送られたという説明があります。(しかしこれは例の想念の巨大な貯蔵庫から引き出された仮空の人間です。ハニー氏注)三番目のメッセンジャーにはフランクリン・D・ルーズヴェルトと署名してあり、四番目のメッセンジャーは全くのケッサクであって、一九六二年七月十七日受信と記して次のように述べてあります。

「リン・チン・チンの魂が米国の宇宙開発計画に関する新しい

科学的な情報を送り、さらに精神修養団体に霊的なメッセンジャーを送る。リン・チン・チンは先週発射された或るロケットのカプセル中で死亡した犬のスポークスマンの役をつとめる或る犬の高級霊である」

このちと長いメッセンジャーが続いて、そのなかでリン・チン・チンは、これからの宇宙ロケット発射実験にはフォックス・テリア種の犬を使用するのがよいと述べています。明らかにこれはエイプリル・フールの冗談ではありません。というのはこの雑誌はこのメッセンジャーを全くまじめに取り上げているからです。まさかこんなものを本気になって信ずる人はいないでしょうが、いわゆるコンタクト・ストーリーのなかにはこれに劣らぬほどバカげたものがあります。一般大衆がさまざまな団体から流されるこうした種類の物語を知って円盤問題がイヤになってしまうのは当然です。

◎ 私のニューズレターはアダムスキ氏から直接出される真実の知識を伝える唯一の情報源です。各号ともア氏の論文を一ないし二ページのせてあり、ときにはロンドンのデスモンド・レズリー氏の記事をのせることもあります。

◎ われわれの宇宙計画と円盤・宇宙人問題に関する啓蒙運動において、われわれはいまや敵陣突破の瀬戸ぎわにあります。私及びこのニューズレターの真実の役割が一般に表面化するのにはさほど遠い先のことはありません。多くの疑問に答えた情報を充分に実証した上で公開するつもりです。これは他の刊行物からは得られません。各国のGAPリーダーもア氏から直送される情報や私のニューズレター中の記事を各自の機関誌に翻訳転載していただきます。

現代の宗教の起源



C. A. ハニ

第六部 結語

予期した以上にこの連載記事をすすめることができませんでした。初期の目的は一応達せられたと思っております。この記事は一般で教えていような現代の宗教をイエスが創設したのではないという事実について、徹底的かつ論争の余地のないほどにこれまでに認められている歴史的な源泉から考証された確証を提示することになりました。

各種の団体がこれと同様な研究をやって同様な事実を発見しています。私がこの連載記事を書いたのは宗教団体や教会や個人をけなすためではありません。あらゆる宗教の背後にある基本的な真理はまたあらゆる科学の背後にある基本的な真理です。各教会はこの社会で一つの職分を遂行しており、信仰というあの特殊なレヴェルに達した人々に役立っています。

多くの生活が或る特殊な教派とその教えに接触することによって完全に交えられ、更新されています。こうした教えは個人がそれを把握するのに正しいレヴェルにありましたし個人を大いに助けています。

早晚発達の段階において個人はより高度な理解力を身につけ、学び続けるでしょう。しかし個人が自分の信じているとおりに生きないで他の生き方をするならば、それは偽善ということになります。

ところで、イエスの生涯でナゾとなっている部分についてはどうでしょう。西歴二一年以来中国で正確に保存されている次のような記録があります。

「われわれの団体結成の一年前、敬愛すべき総督ホー・ヤト・カウオの統治三十年に、われわれにとって栄光ある日が来た。それはわれわれの光明と知識の時代の始まりであった（チャイニス・メイソニック・ロッジの記録から）。

そのころわれわれの都市へ百三頭のラクダ、十頭の馬、多数の牛、それに交換用の商品から成るキャラバンがやって来た。ところがこのキャラバンのなかに二十才くらいでありながら七十才の人の知恵と知識を持つ青年がいた。比類なく美しかったのはこの青年の目であった。皮膚はきわめて白く、きれいなヒゲをたくわえていた。彼の名はハソス・ホーといった（ハソス・ホーは善良なイエスを意味する）。そして彼はみずからガリラヤと呼ぶはるかなる西の国から来たのであった。

なんとという驚くべき知恵を彼は持っていたことだろう！ 十三か月のあいだ彼は教え歩いて、われわれが同胞を幸福にするために同胞にたいしてなさねばならぬ義務を伝えた。さらにわれわれが心身ともに幸福になるためにわれわれの内部の生気をたかめる方法を教えて、その後彼はわれわれを結束させて各人がより大きくより善き人間になるために、この楽しいグループを組織したのである」

右の記録にはもっと詳細に述べてあって、「善良なイエス」がなんども出てきます。西歴二六年元日の記録には別な記事がありますが、それにはこれと同じ青年が前年の八月に北方から帰って

来て十二月まで滞在し、さらに教えを伝えたとなっております。

北京から約六十マイル西方に大きな花こう岩の山があって、そこにほイエスの生誕前数千年にさかのぼる記録が刻まれています。その記録によれば西歴二二、二三、二四年の部分にハソス。ホーの名が七度も出てきます。しかしこの知識は教会や聖職者によって世間から隠されてきました。(以上の情報は神学博士 P・ブシー師によるもので、師の著書「教義か救世主か」いづれか?)より引用しました)

イエスが現代の宗教なるものをつくり出したのではないとすれば、いったい彼は何を教え何をやったのでしょうか? 実際には彼は古くさい習慣、祭式、歌唱、くだらない祈りのくり返し、体裁だけの儀式、人間の発明した押しつけがましい教義などを当時の人々からやめさせようとしたのです。これについての証拠としては、彼の使徒たちの書いたものが間違っていないで彼らがウソつきでなかったとすれば、聖書に次のような箇所があります。すなわち、マルコ七・七によれば教会は真実の教えを教えないで人間のつくったいましめを教えているとなっており、七・九では彼らは宇宙の法則に従うかわりに伝統を守ったとありますが、これは明らかに伝統に従ってはいけなさと述べたものです。七・十五では人間が肉を食べようが食べまいがなんらの相違はないとほめかし、七・十六から七・二十三まではわれわれが正しい道にそって進歩するために克服しなければならぬのは肉体のセンスマインド(感覺器官の心、または肉体の心)であるといっています。

マタイ六・七はどうでしょう。ここではイエスが次のようにいっています。「祈る場合に異邦人のようにくどくどと祈るな。彼

らは言葉かずが多ければ聞き入れられるものと思っている」

新約聖書中に出て来る記録にしたがえば、新約聖書は真理を知るのに実際には不必要だということになります。そこまでゆかないにしても、新約は他の多くの書物と同様にフルイにかけねばならない箇所をかなり含んでいます。その証拠としては、テモテへの第二の手紙三・十五がウソでないとするれば、いわゆる旧約聖書として知られているあの古い聖書は必要なあらゆる教えを含んでいるということになります。しかし今日旧約または新約から真実の知識を選び出すことは殆ど不可能です。われわれが知識を正しくするために持っている唯一の真実のキーは宇宙人の教えです。同じことが哲学、倫理、科学などの書物にもあてはまります。それにもかかわらず多数の人は聖書を「神の靈感によって書かれた書物」と考えています。そのように信じたのならそれは本人の自由です。しかし人がそのように信じて、しかも自分の教会の礼拝式などに反するような箇所を読んだとして、そのまま自分の考えを変えないとすれば、本人は偽善者だとみなされるのが至当だと読者はお考えになりませんか。

右にあげた聖書の各個所は多くの教会で行なわれている慣習は本来廃止されるべきものであることを教えています。出エジプト記二十・四はどうでしょうか。ここでは偶像を作ってはならないということばかりでなく、その前にひざまづくことさえも禁じています。これこそ神の声でなくて何でしょう。

こんな箇所はまだいくらかでも見つかりますが、明らかなのは、聖書が真実であるとするならば教会はウソを教えているのであり、教会が真実であるとするならば聖書は誤っているという点です。

もちろん実際には聖書も教会も多くの真理と誤りとを含んでいます。今日われわれに適用できる聖書中の主な部分は「世の終わり」に関する予言の部分です。聖書中の約三分の一は予言なのであって、われわれがそれを理解するのにそれを正しくするキーを持っているとするならば、これらの予言は意味深長です。

ダニエル書十二・八から十二・九まではダニエルと、世の終わりの時期に関する情報をもって彼にコンタクトした一宇宙人との会話の要約の始まりです。これを平易な言葉でいいかえれば、「ダニエルは書き記すようにと命じられた相手の話の意味を尋ねた。彼はそれが理解できなかったのだ。宇宙人は実際には次のようにいったのである。——意味はあなたの知ったことではない。あなたは知らねばならぬということはないし、意味は世の終わりの時が来るまでは明らかにされないだろう」ところが近年になってこれらの予言を理解するための最後のキーが明らかにされつつあります。いつか機が熟したときに私は現在明らかにされているこのキーを公開することにしましょう。そして読者は聖書中の予言が今日まで保たれてきた真実の理由がおわかりになるでしょう。とにかく聖書から神秘主義や神話などを除いてしまふことです。そうすれば真実が輝き出てきます。

そのキー（複数）の一つはいまでも公表することができません。それはきわめて簡単です。すなわち聖書はみずから説明していません。聖書が何を意味しているかを知るのに説明者や教会は必要ありません。ひとつ例をあげてみましょう。黙示録の第十七章にケモノ、女、その他七つの頭とか十のツノとかいった奇妙な言葉が出てきます。読者はこの部分を説明した沢山の注釈書をお読みに

なったことでしょうが、この奇妙な文章の解釈については各書物の説いていることがみな異なることをご存知でしょう。しかしこの第十七章全部を読んでみますと、それがこの世界のこの時代に今日現存する或る物について述べていることがわかります。第十七章の十八節にはその女は「地の王たちを支配する大いなる都のことである」となっています。混乱してはいけません。女とは都のことなのです。九節にはその都（女）は七つの山に座っているとありますが、この部分は一応除外しましょう。七つの山の上には都市があると考えられないからです。さらに読んでみますと、十のツノは十人の王であるとなっていて、四節にはその都は金や寶石で身を飾り、紫と赤の衣をまとい、手には金の杯（インシュタールの杯）を持っているとあります。この女（七つの山の上の都市）というのは実はバビロンの秘密の儀式なのであって、これについてはかつてこの連載記事で解説したことがあります。右の黙示録第十七章の意味については、この連載記事の古代の儀式に関する部分が理解できるほどに進歩している人（それは少数ですが）にとってはなんら神秘的なものではありません。

以上の件についてもっと詳細に研究することを望まれる方は、前にたびたびあげたヒスロップ著「二つのバビロン」をお読みになることをおすすめします。この書は熱心な研究者にとってはすばらしい書物ですが、通りいっぺんの読者にとっては全く無味乾燥なものでしょう。（完）



1 レイクランドの円盤

次の事件は昨年十二月に英国で発生した円盤目撃事件で、「ランカシャー・イーヴニング・ポスト」紙の第一面に大きく報導された記事を「フライイング・ソーサー・レヴェュー」誌が一九六三年三・四月号にかかげたものです。(編者)

一九六二年十二月十九日(水曜日)の午後、輝く日光のなかをラングデイル付近の低い高原地帯でクリスマスに飾る木を探していたウェムスランドの一青年が円盤とおぼしきものを目撃した。彼はそれが空中に停止しているのを数分間見たが、そのあとその物体は高遠で飛び去って見えなくなった。以下は彼が見た物についての本人の慎重な説明である。

この青年はケンダルの近くのステイヴリー、グラスガース・コテッジの二十一才になるハロルド・スレルクルド君で、バーンサイドのクロパーズ製紙工場に勤めている。

ところで数年前コニストンの医師の息子とその友人がコニストン・オールド・マン山のふもと斜面で一機の円盤を目撃する事件が起こったことがある。彼らは目撃した物体の写真を撮ったがそれはまぎれもない空飛ぶ円盤の形を示していた。(注。有名なコニストン円盤。レオナード・クランプがこの円盤写真とアダム

スキ氏の円盤写真を正射影法で比較して、いずれも同じ物体であることを証明した)

しかしコニストン円盤の写真はピンボケで、少年が興奮のあまりカメラのシャッターを完全に開いていなかったことが後になって判明したが、この目撃事件は世界にすさまじい関心呼び起こし、ロンドンや米国の科学者が少年の体験を子細に調査した。

スレルクルド君は二枚の図面を描いてくれた。彼の話は次のとおりである。

彼はビイラギの木を探し求めてラングデイル地区へ出かけて行き、スケルウイズ橋を通り抜け、エルタウオーター村から約半マイルの地点へ来たとき車をとめて、道路の右手の山の斜面を歩いて登った。

彼はいう。「山を歩いて行ったとき一種の連続的なブーンという音を聞きました。最初は気にとめなかったのですが、しだいにその音が大きくなるように思われたので、あたりを見まわしたところ何も見えませんでした。

そこでひょいと見上げますと、円盤型または皿をさかさにしたような大きな物が空中にいるのが見えました。それは高度約七〇〇フィートの位置に停止していたようで、私は一分間ばかりそれを見つめました。するとそれは約一五〇フィートにまで降下してきて、私はさらに二分間ばかりそれを見たと思います。

突然それはすさまじいスピードでサッと飛び去り、ライノス山道の方へ消えました。

その物の径は五〇ないし六〇フィートばかりあったと思います。そして金属的な青色を帯びていました。自転はしていませんでし

た。飛び去るときにその物の底部をハッキリと見ることができ
した。底部にはビルだるによく似た三個の突出物があって、飛
んで行くときの傾きで上部に一種のドームがあるのが見えまし
た。

円盤の上部の周囲には別な突出物があって私はドームを透して
内部を見ることができましたが、そこにはテーブルまたはベンチ
のようなものがありました。それは全く台皿によく似ていて、上
部にまるい部分があり、ちょうどハチが飛ぶときのような音を出
していました。ただその音が大きかったというだけです。

私はこれまでにこんな物を見たことはありません。それでまだ
驚きから抜けきれない状態にあります。その物体の周囲のフチ全
体にわたって桁のような物がありました」

スレルクルド君はよく晴れた日の午後四時ごろにその物体を見
たのである。その後彼は次のような詳細な話を新聞社へ語ってい
る。「私はクリスマス用のホイラギを探しながら車を飛ばしてい
て、道ばたへとよめました。ヘイをのり越えて右手の山へ歩いて登
り始めましたが、約十分間登ったところブーンという音を聞きま
した。見上げると七〇〇ないし八〇〇フィート思われる高度に円
盤型の物体を認めました。二分後にそれは降下して約四十五度の
角度でまた停止の姿勢を続けました。私はさらに二分半ばかり観
察しましたが、突然それはおそろしいスピードで飛び去りました。
色はアルミニウム色ないし銀色の金属的な青色でした。物体の底
部には三つの突出物があって、それらの中心には円形の鏡のよう
な面がありました。上部には透明なドームがあって、そこから放
射状の青色が輝いていました。そして内部にはベンチまたはイス
のようなものを見ることができました。円盤のフチに小割板また

はヒレがついていて、そのフチとドームのあいだに円窓と思われ
るものが三つありました。物体が動くときはその色が暗赤色から
緑がかった白色に変化しました」

2 宇宙の人類が地球へ来る

「地球はおそらく大気圏外の進歩した文明の人類によって訪問
されてきたのだろう」とケアリフオーニア大学の有名な天文学者
カール・サガン博士は最近米国ロケット協会に語った。さらに博
士の語るところによると、地球は銀河系のさまざまな文明からい
く度となく訪問されてきたにちがいない、かかる訪問のために基
地が維持されるはずで、おそらく月の裏側が適当な場所であるう
という。

本人のその輝かしい経歴と広範囲にわたる研究のためにサガン
博士のこの意見は多数の科学者にとって重要である。彼は宇宙生
物学諮問委員会、米航空宇宙局、大気圏外生物学委員会と大気圏
研究グループ、米国科学院などのメンバーであり、大気圏外の生
命に関する軍側の討論委員である。シカゴ大学卒業の彼はマスタ
ー・オヴ・サイエンスの称号を持ち、天文学と天体物理学で学位
をとっている。

宇宙からの訪問者に関する講演の後に、サガン博士は空飛ぶ円
盤を信ずるかと問われて次のように答えた。

「正体不明の物体が存在することを私はかたく信じている」その
物体（複数）がどこから来るものかは明らかにしなかった。

他の指導的な科学者連と同様にサガン博士はこの宇宙には広く

共産主義とカルマの法則

デズモンド・レズリー

今日私たちは狂気じみた勢力争いの動きに直面しています。物質的な力は結局破壊をもたらすだけだということが人間にはついにわからないのでしょうか。真実の力―最大の核爆弾よりも一千万倍も強力な力、すなわちあらゆる時代の偉大な教師たちによって教えられ示された力こそ永続する結果（複效）を生み出す唯一のものであります。それにあてはまるただ一人の政治家はガンジーでした。そこでその力がどんなふうにして働いたかを調べてみることにしましょう。

残念ながらあなたの国（注。米國）では感情が理性を支配しています。米國人は世界の一方の側（あなたの国）が良く正しくて、世界の他の側（他の国）は邪悪で間違っているという線にそってすべてを信ずるように条件づけられています。しかしそれは危険な子供供っぽいな考え方です。ブラザーズ（注。宇宙人）がいつていますように、彼らブラザーズはいずれの半球からも選ぶべき多くのものを見出すことはできません。つまり両半球とも誤ちをおかしており、また徳をも有しているのです。「相手側の半球が死

滅しさえすれば自分たちが生き残るのだ」と信じている側にほんとうの悪が存在しています。両方が力のすべてを出し合って争えば、両方とも死滅するでしょう。かかる力の競争は無知、迷信、恐怖の力、すなわち今日多数の人の心を支配しているこの罪深い三位一体物のためには真実の勝利となるかもしれませぬ。

もしあなた方がなにかを恐れるならば、それを目の前において分析し、精神的な見地からそれを廻り返して、その正体や存在する理由などを調べてみることであります。もしあなた方が共産主義を恐れるならば、それを目の前においてなぜそんなものが存在するようになったかを調べてごらん下さい。これをなすためには私たちはなつかしい友カルマ（注。カルマの法則）のもとへ帰る必要があります。はるかかな大昔、暗黒時代と呼ばれるあの凶暴と暗愚の時代に世界がはじめて突入した当時にさかのぼってみることにしましょう。この時代から宇宙の諸法則はかえりみられなくなり、イエスから示された兄弟愛によって「敵（注。自我）」を征服することはすたれてしまつて、大いなるカルマの負債が蓄積され始めました。

例をあげてみましょう。或る生まれかわりの代において私はあなた方に害を加えるとしめます。すると後の生まれかわりの代にあなた方は利子をつけてその害を返します。三度目の代において再会しますとまだ戦いは続いて、状況はますますわるくなり、羽根つきのように互いに打ち返し、ついに一方の側が相手を許そうと決心し、それによって大きな精神的な勝利を獲得します。そうすることにおいて本人は過去のキズのすべてを解消してしまい、そのときから相手を友として引き寄せます。これは世の中の最も古

い法則なのです。しかしどれほどの人がこの意味を知っていることでしょうか。

今や私たちは結局種族、家族、国家、社会上の階級、そしてイデオロギーさえも分裂させていますか、カルマという見地からみてこれらは個人と同様の法則にしたがっているのです。数千年のあいだ持てる国は持たざる国を食いものにしてきました。そのためにどうな たでしょうか。カルマの法則はこれに訂正しようとしていきます。始めに法則は愛によって試みようとしています。そして穏厚な教師や改革者が現われます。イエス、聖フランシス、ヴァンサン・ド・ポールなどがそれです。すると他の地にも教師が出現しました。少数だけあげてもウィクリフ、ガリレオ、聖トーマス・ムーアなどがいます。この人たちに何が起こったのでしょうか。この愛の使者たちは問題にされなかったではありませんか。人類は弱い兄弟から強奪することや言語道断な非行を行なって満足し続けています。

その結果、強じんな改革者が現われました。ルーテル、カルヴェイン、マルクス、エンゲルスたちです。ああ、そうだ、この人々の名をあげたことに驚かないで下さい。人間がチャンスを与えられた後に愛によって学ぼうとしないならば、人間は剣によって困難な道を見い出すでしょう。フランスとロシアの革命をごらん下さい。ヴァンサン・ド・ポールのような人たちが献身的な愛と模範と放棄の生活によって社会上の不正を打ち破ろうと努力しました。そして多数の若い貴族が自己の財産をなげうって公平な分配に同調しました。しかしこれは充分ではありませんでした。充分ではありません。そこでロベスピエール派が現われました。この残酷

な人々は恐ろしい仕事をなしとげるためにこの世へ出て来ました。もし朽ち果てた建物が愛にこたえないならば、カルマという非情な力によってたたく切られ、破壊されるのです。

神は努力します！ 神はその親切なやり方を人間に教えようとして一生懸命に努力するのです。しかし私たちが聞こうとしなければ神は困難な道を教えること以外に仕方がないのです。これはしかし神の愛のこの上ない証拠です。感傷的な神ならばこんなことはやれないでしょう。神は人間を完全な破壊にまで導くかもしれません。しかし無限に愛する者のみが、人間が目覚めて神と同様に完全になることができるように、誤ちで悩ませるための勇氣と愛とを持っています。神よりも劣る者、神ほどの愛を持たぬ者はつまずいて失敗するでしょう。

さてロシアを例にあげましょう。それは二十世紀にあって中世の状態にあります。そうだ、彼らはたとえばトルストイのような説教者を持っていました。しかしロシアの教会は独裁者に身を売って国教の防壁となりました。トルストイは「寺院から追い出された」のです。他の多くの人がこれと同様の目にあいました。結局、レーニンと呼ばれる強じんな小さな夢想家がカルマの運命を遂行しています。

共産主義は宗教と関係を持つことを望みませんでした。これはロシアの宗教がその高度な目的を裏切ったためです。カルマ上の理由からしてロシアが無神論の時期を経るということは論理上必然的なことでした。そして西欧側によってこの無神論なるものに過大な重要性が付与されました。日曜日には神について多くを語り、月曜日から土曜までは隣人から金をふんどくっている西欧側

にです。あなた方がどれほど教会へ通い、神について語ったところでもそれが何になるでしょう。価値があるのはいかに神の法則のもとに生きるかです。

おとなとしてのイエスが教会を訪問したという唯一の記録は、「父」の家を汚した両替屋を彼が追い出したときのきわどい暴動で結局終わっています。ルーテルやレーニンが腐敗した非精神的な教会へ入って行ってそれをひっくり返したときにもこれと殆ど同じことが起こっています。

私が米国の教会へ行ったときはいつも香料のようにただよってくるドルのにおいと教会の背後にある富裕な団体の鼻孔のなかの甘いかおりをかいたといったとしてもどうぞお許し下さい。また家のない人々がいる限り教会というものはすべて殆ど意味をなさないこと、人々がポロをまもっている限り高価な法衣は殆ど意味をなさないことを私が感じるといってもどうぞお許し下さい。教会にとってはあのイエスは「陽気なよき金もうけ仲間の大先輩」として尊敬されているのです。

ああ、しかし胃潰れについての古いカルマの残務は一九一七年から一九二五年までは行なわれませんでした。世界は新興ソビエトにたいして恐怖をもつて向きを変え、それを駆除するために全力をつくしましたが、それによってさらに多くのカルマをつくり出してしまいました。そしてこの最悪の結果はスターリニズムを生み出すことになりました。かつてないほどに残忍なあのスターリン！ 秘密警察、ごう問、その他悪のあらゆる責め道具が精神的な指導を行なうことのできたはずの場所に現われました。しかし陰にたいするものは陽です。苦痛のなからゆっくりと「父」は

優勢を示し始め、古い中世風の社会がたいへんな社会主義者の自由主義を持つて示し始めました。

共産主義その他の主義は武力によって決して破壊されないでしよう。しかしそれを破壊できる唯一の方法があります。それは、カルマの法則による因に気づいて、現代の混乱のなかで神の宇宙の法則に従って生きることです。このためには両側が自分の感情主義を克服しなければなりません。相手にたいする盲目的な恐怖と憎悪がしずめられて東と西との手が握られねばなりません。無益な戦争の組み討ちでなく、兄弟愛の結合においてです。いずれの側にも善なるものが多くあるのです。私たちの仕事は一緒に落ちついて両世界をできるだけ利用し、新しい世界―地上の天国―にそなえて自分で準備しておくことにあります。

再度いいますと、「父」は私たちに、「敵」とともに落ちつき、文明化された方法で互いの相違点を解決するチャンスを与えているのです。しかし人間はあまりに時間とカルマの付帯事案に不足しようとしています。

たぶん最大の危険は真実の敵を見い出すことが不可能という点にあるでしょう。この「敵」とは人間の低劣な自我、すなわち肉体の心またはセンスマインド（感覚器官の心）です。その「敵」の名は「恐怖、憎悪、無知」であり、獣的な力という言葉でしか考えることのできない「動物的な人間」です。

一九六二年十月二十一日

ロンドンにて

土星旅行記

G・アダムスキ

(一九六二年三月二十七日より三十日まで土星で行なわれたこの太陽系の十二遊星の代表者会議に出席した際の宇宙旅行に関する報告)

二十六日に私は一機の宇宙機に乗ってこの旅行に出発しました。この宇宙機は二十四日に米国の或る航空基地へ着陸しましたが、そこで米政府の一高官がその宇宙機の乗組員と会談をしました。この会談後、宇宙機はもとの遊星へ帰ることになったわけですが、この宇宙旅行は時速二千万マイル以上のスピードで九時間ほどかかりました。主な会議は二十九日と三十日に開かれたのですが、私は二十七日に到着したときに出席者の殆どに会いました。二十八日は会合はなくて、訪問者は都市やその周辺の見学に案内されましたが、それは言葉ではあらわせないほどに美しい光景でした。建築物や大通りなどの壮麗さは信じられないほどです。ここで私

が大通りというのは、地球で私たちが知っているような種類のものではありません。というのは土星の大通りは花で作られているからです。地球のコンクリートまたはアスファルトのようなものではなくて、何マイルも何マイルも花がしきつめてあって、各大通りが異なった色を帯びています。

土星の乗物には車輪がありませんので、地球にあるような種類の道路を必要とせず、ただ進行路線があればよいのです。この各路線というのは横幅の広い花壇なのであって、この上の空間を電磁作用で進行する乗物が植えてある花を傷つけないで滑空するのです。私たちは多くのこうした大通りを進行しましたが、先にも述べましたように、すべてがあまりに美しく地球の言葉ではとても表現できません。目撃したとおりに正確にこれらの光景を私に思い浮かべるにつれて私の心のなかを写真に撮ることができれぱよいと思います。私はカメラを携行して写真を撮りましたが、地球へ帰ってフィルムを現像してみてもそれがすっかりだめになっているのがわかりました。カメラさえもとのままには作動しません。どういうわけか私にはわかりませんが、たぶん船体の磁場がフィルムを傷つけたのでしょう。

私は次のようにいうことができます。土星の建築様式はわれわれの想像を絶したものであると。遠くから見れば都市は白く見えますけれども、そのなかを歩いたり乗ったりして通過しますと、各建物やその他一切は乳白色を呈しています。それは息のつまるような体感でした。建物の幾何学的な構造があまりに美しいからです。それはわれわれがこれまでに設えられてきた「天国」そのものであるといえるでしょう。人々は一大家族として住んでいま

すが、この地球上の兄弟姉妹よりもっとすぐれた生き方をして
います。土星人は、われわれ地球人がいわゆる「神」にたいして
敬意を払う以上にはるかに大いなる敬意を人間同志が互いに相手
にたいして示し合っているのです。だれでも完全な調和を感じる
ことができました。というのは、われわれが地球で知っているす
ばらしい音楽においては多くの音符が一つの美しい旋律をつくっ
ているのと同様に、宇宙の法則という関係においてそれは最低か
ら最高に至る多くの心を含んでいたからです。まただれも土星人
の想念や行動によって彼らのあいだに全くいささかの疑いや不信
をも感ずることはできませんでした。

もちろんわれわれすべてが知っているように、土星は天びん、
すなわち完全なつり合いを表わしています。そして一度そこへ行
つてみればこれを疑うことはできません。しかも土星人は宇宙の
生き物のあいだにこそより大きな美とより大きな調和があるのだ
といっていました。

われわれの現在の精神状態からみれば、われわれはこのことを
全然理解できないようにも思われます。しかし、われわれがこの
すばらしい生命の計画に自己をゆだねるならば、それはわれわれ
の所得物となります。私は何度も考えることがあります。この地
球上のすべての人間はかかる大きな名譽を受けるほどに自分を向
上させるのだろうか。地球的な見地からみますと、ときとして
少数の人だけがこの特權を持つのだろうかと思われます。地球人の
心はあまりに個人的な努力に熱中して、容易に腹を立てるか
らです。このことはすでに長い時代を通じて行なわれてきました
ので、次のような質問が起こってきます。「創造者から与えられた

生命の充実にたいする權利を得ようとして、いったいどれほどの
人が努力しているだろうか？」そこで私は永遠なるものを考えてき
ました。そのなかには万人が含まれていますので、そのためにい
つかはだれもがそれを行なうでしょう。或る人は早くそこへ到達
するでしょうし、数十億年がかって到達する人もありましようし、
なかには全然到達しない人もあるでしょう。われわれの自我また
は個性を創造者の意志にゆだねることは容易ではありません。し
かし自我にどのような犠牲が起ころうとも、それは努力すべき事
柄なのです。

次のようにいう人があるかもしれません。「もしわれわれが自
我または個性を捨てるならばわれわれは間抜けになるのではない
か」と。そうです。地球的な見地からすればそれはほんとうです。
しかし人間は創造者の意志以上に大きな間抜けになることができ
るでしょう。自我を捨てればあなたは創造者と一体になるでし
ょう。それが創造の目的なのです。われわれが黄金や他の物の言
葉で富を計っても、いかなる富といえどもかかる参与者になる人
々を待っているところの報いをわれわれに与えることはできない
でしょう。

そうです。私が目撃したすばらしい美を表現することは困難で
す。それはこの地球上のいかなる物をもはるかに凌駕しているか
らです。われわれの取るに足らぬ「心」は攻勢的であるかもしれ
ませんが、まだ目覚めてはいません。というのは、それは依然と
して永遠の子宮のなかにあつて、創造者の目でもって実際に存在
する物を見るかわりに、存在するかもしれない物を夢見ているか

らです。そうです。協力者のみなさん。私は今度の宇宙旅行で私に与えられた名譽をおわかりかちする特權を授けられるために自分が何をやったのか私にはわかりません。

もし私が知る特權を与えられた物事のすべてを心のなかに集めることができれば、一冊の書物が書けるでしょう。しかし、おわかりのことと思いますが、例の世界講演旅行から帰って以来ずっと私には多くの複雑な状態が起こっていますし、また人間は二人の主人に仕えることはできません。それゆえ、私が美しい宇宙をながめているあいだに受けた印象のすべてが充分によみがえってくるのを待つことにします。私にはあまりに仕事が多すぎるのです。私は自分の義務を遂行することができるように必要な援助が現われることを祈っています。いかなる性質の疑惑をも起こすことなく、私が洩らす物事にたいして人間の心の素直さをそれは必要とするでしょう。

さて、土星の会議の説明を続けましょう。地球時間の三月二十七日に私たちは最初の会議を開きましたが、それは三時間続きました。各遊星から来た代表者が紹介されました。全部で十二名です。そして各自の遊星を表わす徽章を一同は授けられました。この会議は、その都市の小さな会合や演劇の上演のような諸活動の集合場所として用いられる或る建物のなかで開かれました。二十日は休養や見学のために費やされました。

二十九日にきわめて美しいデザインの建物で主な会議が開かれました。操作はすべて押しボタン式です。会議の後に一同はこの操作法の説明を聞きました。ボタンを押すと床が取り除かれて会議用の準備のできた議場が床の下から現われてくるのです。四方

の壁も必要に応じて調節できるようになっています。会議のあいだそれらの壁は優美な紫色に輝いていて、黄金色の模様が浮かび、一きわめて高い柱がついていました。一同が座ったテーブルは長く、片側に六人が座り、端に十三人目の議長が座りました。テーブルの端から端までにはまんなかに一条のくぼみが貫いていて、そのなかには十二の噴水がしつらえてあり、一つの噴水が各代表者の前になるように位置しています。各噴水はそれぞれ異なる色と芳香を放って、建物中にころよいふん困気を生み出しながら一体となって混ざり合っています。その噴水や天井、各壁などから音楽が流れてくるように思われましたが、地球には全然ないような音楽でした。それは宇宙のあらゆる活動の音響の融合であり、木々のあいだを流れるそよ風またはさざ波の音にたとえてよいでしょう。地球人に知られているあらゆる音や未知の多くの音が完全に調和して融合した音楽です。そしてその旋律がどのようなものであったにしてもそれは地球人の理解力を越えたものと思われまます。私にわかったところでは、その音楽は創造者に捧げられた創造の表現なのでした。

議場で着用するために各人は長い外衣を与えられました。私に渡された外衣は優美な青色のものでしたが、実際にはその色を言葉で表わすことはできません。右袖にはバラ様の刺しゅうが施してありましたが、そのバラは私が地球で見たことのないものです。そのバラのトゲは地球上の生命を表わしていました。そして、それを見て私はイエスの次の言葉を思い出しました。「わが道はイバラで満ちている」議長は宇宙の諸原理を表わした乳白色に反射する外衣を着用していました。その十八時間の会合のあいだ（地

球時間に換算して)私が感じたのは、私はもはや自分自身の心を持たず、また個人という感じも起こらず、むしろ或る完全な実体と調和している一つの重要な部分としての自分を感しました。

議論として最初に出た話題はこの太陽系と地球に関する問題、太陽の磁極の逆転とそれが全遊星にどのような影響を与えるかといった事柄です。論点は次のようなものでした。すなわち、われわれの太陽系は崩壊期にあるのか。もしそうだとすればいかなる処置をとればよいか、といったことです。長時間にわたる熟慮の末の結論は確定的なものではありませんでしたが、しかし科学装置に示される測定では発生しつつある諸変化を記録していますので、太陽系が崩壊期にあるということになれば数年以内にそのことを明言することになるでしょう。

地球を除く各遊星は宇宙船を所有していますので、居住に適している新しい太陽系へその住民を移動させることになるでしょう。この新しい太陽系にはすでに各遊星から連れて行かれた百万の人が任んでおり、そのなかには地球人もいます。太陽系崩壊の場合には、地球人はみずから宇宙船を建造しない限り苦難に遭遇することになります。もし他の遊星群の住民に時間的な余裕があって、しかも地球人を救出するための余分な宇宙船があるならば地球人を救うでしょうが、それが可能かどうかは疑問です。というわけは他の遊星群は各自の住民をまず輸送しなければならず、この全太陽系中の人口は総計一千四百四十億に達するからです。このことは財産の輸送までを含んではいけません。ですから、財産までも運ぶとなれば大仕事です。この時期がいつになるかはだれにもわかりません。しかし、いつか来るでしょう。彼らは地球人が宇宙

船を建造することの重要性を強調しています。そして現在そうするるように地球人を援助しているのです。

地球人は責任感を失いつつあるということ、そしていつか目覚めなければみずからを絶滅させることになることが指摘されました。現在の原子エネルギーの爆発は間違った方向に進んでいまして、突進を中止しないならばその結果はただ文明を失うだけになるでしょう。かつてきわめて平穩に存在していた宇宙空間の諸状態を放射能はひどく妨害しています。それは海洋を感乱する暴風にたとえられます。これは他の遊星群にも影響を与え、太陽系全体に妨害を加えて崩壊を早めることになるのです。宇宙の各種の力が悪用されてきて、宇宙空間の平穩さに反して作用しています。最近の突進がさらに続けられるならば、竜巻、地震、異常な気象などが地球に災難をもたらすでしょう。これらの一連の突進はあらゆる自然の法則を不均衡にしています。宇宙人たちの言によりますと、それは全く好ましからざる状態であるということなのです。つまり地球人はみずからの手で地獄をつくり出しているわけです。別な楽しい状態をつくり出すこともできませんのに。

この太陽系の或る遊星群もかつてやはり同じ原子力を発見した当時、現在の地球と同様の状態になったことがあるそうです。しかし彼らは自滅するかもしれないことにすぐ気づいて、破壊のかわりに人類の福祉の方向へ転じた結果、このエネルギーを用いて専ら上の天国を築きあげたということなのです。地球でも同じことがやれるでしょうに！

三十日の朝三時間と夕方の三時間は「宇宙計画」についてわれわれを啓発することに費やされましたが、それについてはいずれ

お話しすることが許されると思います。というのはこの会合のあいだに火星から来た代表と私の二人の頭部に或る器具がとりつけられました。私たち二人だけはその場で話される事柄のすべてを記憶することはできないことを一同は知っていましたので、こんな装置によって私たちの脳細胞に知識を印象づけたのです。洩らしてもよいという時がくれば私たち二人は聞いたことを思い出すことができるでしょう。そのとき印象は活性化され、聞いたときと同じように新鮮によみがえってくるわけです。いいかえれば私はいまテープ・レコーダーなのであって、与えられた印象はすべて無期限に頭のなかへ詰められているわけです。その機械はまるで多くの針が私の脳の各細胞へ突き刺さるような奇妙な感じを与えました。その機械の使用や急速な宇宙旅行は、私の肉体がそれになれていなかったために、私のバランスを失わせてしまいました。そこでなるべく正常な気分を保つために或る処置を受けたのです。この処置というのは一つの振動機械からなっていて、それが私の肉体内のエネルギーばかりでなく細胞のバランスを保つのです。こちらにいる宇宙人はそんな機械を持たず、また私を治療できる人もいませんので私はそれを自分でやらねばなりません。楽なことではありません。こんな宇宙旅行の後からだの調子を地球の状態に合わせることは、ただ心で想像する以上に困難です。私は他の人もかかる旅行をしないほうがよいと思いますし、移住するために別な遊星へこの肉体を運んでもらおうとは全然思いません。むしろ靈魂のままで行って生まれかわり、新しい環境で生長するほうがはるかに楽です。

彼ら宇宙人が浴しているのと同じ創造者の榮光にこの地球上で

浴せうとするのなら、われわれのすべてが遂行しなければならぬ一つの計画を私は与えられています。それにはまずわれわれを絶滅という言葉でおびやかしている危険を取り除く必要があります。近いうちにこの計画の準備ができると思います。

私はまた米政府の一高官へメッセージを渡すように頼まれました。そのためにワシントン市へ旅行に出かけたわけです。卒直に申しますと、私たちすべてにはこれから多くのなすべき事があります。そのすべてを片づけるのに必要な援助が得られることを願ってやみません。

さて、この土星の会議の件を知った協力者各位は、各自が受信した印象の内容が正しいかどうかはわかるでしょう。会議全体の内容が私の声をも含めて地球へ放送されたのですが、特に二十九日はそれが強力に行なわれました。受信力がいかに正確であったからといっても、あなたは自分自身に判決を下すべきです。一つ私がいえることは、メッセージの幾らかを正確に受信した人は受信の能力を持つていて、祝福されるだけでなく、その持つて生まれた力のためにも祝福されたということです。そして未来において想念伝達と同じ方法を用いることができるように自分を分析することです。あのメッセージを受信した当時にあなたの精神状態がどのようであったかを考えてごらん下さい。そうすればこれはあなたにとって大きな助けになるでしょう。

ワシントンにいたあいだ私はGAPとは関係のない一人の男に会いましたが、彼も約十パーセントばかり受信していました。彼は税務局に関係のある人です。そこで、だれでも番組に波長を合わせるができるはずで、結局それには一定の心の状態を必要

とするだけで、ただそれだけのことだということがわかります。受信するためには精神的に高くある必要はありません。現在の危機から人類を救い出そうという気持ちさえあればよいのです。これはまた結局本人をも助けることになります。

もっとこれ以上に洩らしてもよい時がきたら私はそうしましょう。しかし現在ではこれだけの情報で一応満足して下さい。物事に成功するには一時に一步ずつ踏み出すことが肝要です。多くの妨害が私たちの前で行なわれるでしょう。それについて疑いはありません。しかし人間は何をやっても妨害や敵対行為がつきまとうものです。

われわれの計画に対抗しようとする一定のパタン（型）があります。私は二名の人を心に思い浮かべます。一人はかつて密接な協力者でしたが、いまは協力することを拒んでいます。他の一人はかつて私を防衛するために働いた人でした。ところが彼らの両方とも疑惑のワナにひっかかってしまい、不信の状態におち入りました。私はこの証拠を持っています。彼ら二人が出す情報の内容と私にたいする非難は一致していますが、二人とも数千マイル離れています。東海岸にいるあいだに私は他の妨害者たちに出くわしました。このことで一つの事実がわかります。すなわち地球全体に放射されている一つの影響力があって、それがみずからを或る種の考え方にゆだねているという事実です。それは想念伝達、テレパシー、またはその他の名称で呼ばれてよいでしょう。それゆえ疑惑の念に気をつけて下さい。そして早計に他人を疑わぬことです。われわれのものであるはずの美を失うことよりも、忍耐

強くあることによつて一度バカにされるほうがよいのです。疑わないで互いに信じ合いなさい。われわれが「至上なる父」のために働くとき、それは自分自身のために働いていることになるのです。天使のような顔をして現われる人がいるでしょうが、その姿と動機は異なっています。それには忍耐力強くあることです。その人々のワナに落ち込まないようにして下さい。悪魔でさえも神のように行動できるからです。すべからくヘビのように賢明に、ハトのように穏和にあるべきです。そうすればわれわれは勝利を得ずにはいられません。

一九六二年六月

編者付記

右の記事中に土星からの想念放送に関する旨が述べてありますが、これはアダムスキ氏が昨年土星へ行った際に地球へ向けて宇宙人とともにメッセージを送ってテレパシーの受信実験を行なう計画を出発前に各国GAPリーダーに連絡した件を意味します。各リーダーは一定の時刻に（地域によって時差があります）テレパシーによってそれを受信し、ア氏宛に報告しました。後日の発表によりますと、オランダの協力者レイ・ダクイラ女史が七十パーセントの適中率を示して最高点、私は五十パーセント適中という成績であったことが判明しました。メッセージの内容については省略します。

異常天候の原因

C. A. ハニ

昨年八月号のニューズレターに気象上の異常に関する記事を掲載し、その異常の背後に存在する原因について述べました。世界の気象状態をひっくり返すような現象が起こっている事実を多数の人が認め始めていますし、昨年の例の記事で述べた私の考えに似た意見を打ち出している科学者（複数）もいます。

しかし核実験が気象に影響を与えらという考え方に反対している人もあります。科学者のなかには、現在のように強力な核爆発でさえも一つの台風で解放されるエネルギーに比べればただの銃声にすぎないといっている人々もいます。彼らの意見では核爆発のエネルギーは台風のエネルギーにくらべればきわめて小さいので、気象に影響を与えることはおそらくないだろうというわけです。

昨年から今年にかけての冬は世界各地に異常天候の新記録をつくりました。イングランドでは今世紀最大の降雪をみましたし、米国のノースキャロライナ州では気温が氷点下四十度以上にも低下しました。北半球の温度は過去四年間連続で例年よりも六度ないし二十度低下しています。タイペー河はこの五百年間に始めて氷結しました。これらは多くの新記録のうちの少数にすぎません。

原子力委員会のサミュエル・グラストン博士は「核爆発エネルギーは自然のエネルギーに比較すれば取るに足らぬものであるか

ら、それが気象に影響を与えるはずはない」とか「一回の爆発で舞い上がるホコリは日光を妨害しない。なぜならそれは火山の爆発で見られるような噴煙の一パーセントにすぎないからだ」といって、一例として一八八三年にクラカタア火山が爆発したとき、噴煙が太陽光線を妨げたために米国の東海岸までも気温が低下したことをあげています。

しかし、私が昨年八月に指摘しましたように、気象の異常を引き起こすのは爆風ではありません。高空核実験の爆発は発電機としての作用をし、その高度が高いほど発生する電流は強大になります。この電流が大気中の微粒子に帯電してフォース・フィールドを生み出し、それが上層気流を大きく変化させるのです。するとこの変化した気流が気象に影響を与えることになるのですが、このことはごく最近科学者連によって認められています。

また核爆発は膨大な量の荷電微粒子を出しますが、それが現在地球の磁場をゆがめています。そしてこの地球の磁場の変化はただちに電流を発生させます。すると地球のフォース・フィールドはこの電流に従って変化し、このフォース・フィールドの変化も各地で地震を発生させることになるのです。

このことからして核実験だけが気象に影響を与えるのではなく、太陽の磁極の逆転によって起こる磁場の変化も関係があるということがわかります。この点についてはかつてたびたび説明しました。

数か月前に行なわれた高空核実験のために地球の周囲に新しい放射能帯ができたとき、その影響は数週間で消滅してすべてが正常にもどるだろうと科学者は言明しました。しかし彼らはいまや

生命の科学

G. アダムスキ

その放射能帯が十年またはそれ以上も存在するかもしれないことと、それが今後の或る種の契機を妨害するかもしれないことを認めています。加州工科大学の気象学者であったアーヴィング・クリック博士は次のようにいっています。「われわれは昨夏北米中に見られた気象の異常現象に注目し始めた。気象は気圧の分布状態によって決定されるが、これは宇宙空間から主として太陽から来るエネルギーが原因となっている。太陽は変光星である。そのエネルギーの放出は一定していない。高エネルギーの時期には地球の亜北極圏に激しい熱源が得られる。逆にいえば、この熱は北極の寒冷な空気を北半球一帯に吹かせることになる。地球は現在太陽エネルギーの低い時期にある。これが意味するところは寒さは激しくはならないだろうということである。

ところが昨年カナダから襲ってきた寒波の激しさは予想以上のものがあつた。このことは高空に何かが発生しているということの意味した。太陽エネルギーの増大と等しい何物かである。これについてわれわれは核爆発によつてできた放射能帯が太陽エネルギーの増大と同じ影響を及ぼしているという意見を持っている。この予測し得ない熱源が、かつてめつたに雪の降つたことのない場所にまで雪をもたらすほどのスピードで北極から南方へ寒波を走らせるのである」(ジス・ウィーク誌一九六三年三月十日号から引用)

右の説が真実であるとするならば、太陽の磁極の逆転と相まって、核実験が過去の異常天候の主な原因となつていくわけだ。近い将来もつと多くの異変が起こるでしよう。

☆

☆

「あなたは研究用の大図書館を持っているか」とこれまで何度も質問されました。答えは「ノウ」です。私は大きな辞書を一冊持っているだけです。私が持っている図書館は「宇宙の英知」であつて、なにかの解答を必要とするときはそこから引き出すのです。

また次のように問われたこともあります。「なぜまじめな研究者はほんとうに自分のものでなければならぬと感ずる高さにまで到達することができないのか」これは教えてくれる先生が実力を持たず、また教えるために必要な知識を持っていないからです。たいていの教師は金をもうけるためにのみ仕事をやっています、予備的な体験という真実のバックグラウンドを持っていません。

研究者自身は安定していかなくてもいいかもしれません。研究者というのは自分で問題を解こうとしないのでただ読んだり聞いたりするだけでは高く向上することはできないのです。例をあげますと、私には直接私と一緒に働いていた研究者がいたことがあつて、各自の意見が自由に述べられるような状態にありました。彼らはかなり進歩しましたが、やがて他からの思想を受け入れて争いを起こすようになりました。或る場合は彼らの進歩は停止して、彼らは得ていたはずのすべてを失つてしまいました。こんなことがあつてはなりません。あらゆる研究者は自分が教師になり得る高

さまで進歩しなければならぬからです。一個の機械で他人を指導する前にその機械の各部分を知っておくのが重要であると同様に教師とともに一つの問題に取り組むことも重要です。書物による学習はあなたにそんな体験を与えないでしょう。人間の努力のあらゆる例において学徒は教室で書物や言葉から学ぶでしょうが、もし本人が指導者が教師になれば本人は書物で学んだ問題と直接に取り組むことによって学徒として勉強しなければなりません。この世の仕事はそんなふうにして行なわれています。成功するためには人はあらゆる小さな物事にも細心の注意を払う必要があります。すべての研究者が恵まれるわけではありませんが、恵まれていた数名の人が私のところにいたことがあります。

最近、もう少しで私に代わることできた人がいましたが、本人の関心がなくなって身につけていたものすべてを失いました。もう好機会は二度と来ないでしょう。

目下別に二名の人が進歩しつつあります。一人は特に一年半ばかりで驚くほどに進歩して、私の期待以上の結果を示しました。先に述べた例のように関心を失わない限り、この人はいつまでもわれわれの仕事を続けることができるでしょう。

人間は日常の必需品についてどうすれば未来に確信が持てるでしょうか。それは人間を地上へ置いた創造者を信ずることによって持てるのです。なぜなら創造者は生命の授与者ではありませんか。創造者の目的に役立つ人はきつと忘れ去られることはないでしょう。私はこの尋仕のために食物や家を欲したことはありません。美しい土地や建物を私は持っていますけれども、それにはやはり代価を支払わねばなりません、その支払いはなされること

が私にわかっています。なぜならそれは私に従って来る人たちがすべての仕事と未来のために捧げられたものであるからです。人間の安全保障がなくなったとしても創造者は決してそれを無視しないでしよう。人間によって蓄積された知識という富はこの世のすべての黄金以上に価値があります。それは永遠に人間に付随して運ばれる富であるからです。

一研究者が一教師とともに密接に研究するとき、二人は自動的に同調するようになり、同じ知識の源泉を引き出す者同志として役立ちます。こんなふうにして二人は真実のテレパシーによる結合体を見出すのです。これが他の遊星の人類が進化してきた方法です。

「冥想」は宇宙の法則とのほんのわずかな不一致さえもない高遠なものであるべきです。しかし「精神統一」は一般に信じられている効果をあらわしません。むしろそれは一瞬間も関心が分離することのない一つの想像または想像作用にすぎません。一度明瞭な心像が充分に浮かんだならば、それを完全に解き放つてあとを忘れてしまふ必要があります。それに執着してはいけません。これはテレパシーによる印象の感受や放送をするときに必要です。心像が浮かんでから放たれるまでの時間が早いほどよいのです。精神統一をすることは一般に精神統一というものが定義されているとおりにしたがえば結果を破壊してしまい、印象は正しく送受信されません。

私は目下「生命の科学研究講座」を設ける準備をしています。それはこれまでに教えられてきたいかなる精神科学とも異なるでしょう。それは万物のすべての分野とそれを支配している諸法則

を包括することになります。宇宙人が現在の進化の状態に達したのはこの生命の科学によるのです。

人間がこれまで研究してきた神話は事実によって置き換えられ、完全に排除されるでしょう。しかしこのためにだれも自分の信念を捨てたり変えたりする必要はありません。それはちょうどエンジニアリーになろうとして勉強している人が自分の信念を捨てる必要がないのと同じです。

私のいう生命の科学の研究は多数の人にとって容易ではないでしょう。それには生命の哲学が含まれていて、しかもあらゆる信念は哲学に基づいているからです。この研究を行なおうとする人はすべて或る一つの事柄を理解する必要がありますので、ここでそれを明らかにしておきたいと思えます。すなわち、この研究から何かを得ようとするならば各人はオーブン・マインド(注)の寛容の精神とハッキリした論理的な考え方を持たねばならないということです。自己の既成知識を持ち込んで心中に混乱を生じさせてはいけません。われわれは研究者にたいして他の人々の教師になってもらいたいです。

一九四五年に研究と私の仕事の援助の目的で私のところへ一人の婦人がやってきました。彼女は神秘的な性質を帯びた知識を殆ど持つてはいませんでしたが、神の摂理を信じていました。一方私は子供のころからさまざまの神秘的な性質の知識を持っていました。彼女は念頭から除くべきものを殆ど持つていなかったために、こちらの指導に疑問を生じることなく与えられる教えを明瞭に把握することができました。疑問を放つとそれは分析することによってさらによき理解の助けになったのでした。その結果彼女

の進歩には著しいものがありました。

後になって彼女は私が不在のときには私に代わることができるようになりました。ところが現在は、彼女がそうして持つていた明晰な真実の概念はつまり神秘的な教えに置き換えられてしまっています。この不幸な状態は、生命の真実の性質についてみずから混乱している他の人々の話に彼女が耳をかたむけたときに起こりました。

この結果この人は一そう大きな混乱にさえ通じる異なった道を歩み始めています。いまや彼女のかつての確信は恐怖にかわっています。以前に彼女がきわめて立派にやっていた仕事を私が再び頼んだとき彼女は答えました。「私にはできません」

以上はイエスのいった言葉「幼児のようにならなければ天の国へ入ることはできない」の意味です。天の国というのは生命の真実の知識のことです。これが「生命の科学研究講座」を設けた理由です。それは研究者を向上させて教師とし、他人を助けるのを可能ならしめることにあります。

オランダの女王は私にむかって次のようにいったことがあります。「あなたの平易な言葉と表現の仕方のために、素人でもあなたのようにしている事柄の真実性を感じる事ができます。長いあいだ人間を混乱させてきて、しかも人間を不安な生活に縛りつけていた神秘的な言葉を用いないで、あなたは人間に生命の真実さをもたらしめています」人間は一人の主人をだまさないで二人の主人に仕えることはできません。人間がだましている相手は通常自分自身です。「生命の科学研究講座」については、最後の計画ができ次第に詳細をお知らせします。

一 編集後記

◎ 長いあいだの念願がかないまして今度やっと和文タイプライターを入手することができました。この号は私がみずからタイプして製版し印刷したものです。素人のすることですからあまりきれいではありませんが、手書きのガリ版よりは読みやすいと思います。ご援助下さいました方々にあらためて厚くお礼を申しあげます。この際ついでに輪転印刷機も購入して、今後は印刷までも一手にやることにしました。これからは思うように刊行物が出せると思います。ただ気になるのは印刷機の代金一万八千円と活字代残額八千円その他付属品代などで計三万円ばかりを要することです。なんとかして私の手で償却したいと考えていますが、目下経済的に全然余裕のない状態にありますので、できればご支援いただければ幸甚に存じます。

◎ 本号は記事をふやして三十七ページにしました。今後もなるべく増ページしたいと思っています。英国の円盤研究誌「フライイングソーサー・レヴュー」にかなり有益な記事が載りますので、それもどしどし転載したいのですが、ハニー氏からの連絡によりまず「同誌はアダムスキ氏にたいする有力な支援団体であるけれども、それとGAPとを結びつけるのは遠慮してほしい。なぜならGAPを頭からインチキ視している人々に世界一流の円盤研究誌の名声までをも疑わせることになるから」ということなので、転載は一応差しひかえることにします。英語の達者な方は直接にロンドンから取り寄せてお読みになるとよいでしょう。申し込みの方法については私宛にご照会下さい。

◎ 去る四月二十八日午後一時から三十分間九州朝日放送のラジオ

オ番組「電話リクエスト」の時間に九州大学の塩谷博士がゲストとして出席され、「宇宙人は存在するか」と題して聴取者からかかってくる電話での質問に回答されましたが、この番組で私もアナ氏の質問に答えて電話で五分間ほど円盤について話しました。番組の全部を私は聴くことができませんでしたが、塩谷先生及び平野三郎氏からのご報告によりますと、質問者の半数以上は宇宙人の存在を信じているということで、この番組は大成功であったとのことでした。

◎ アダムスキ氏や私にたいして依然として攻撃や妨害が行なわれているようですが、私はいささかも意に介するものではありません。今後も全力をつくして活動したいと思っています。「アダムスキの書いた文章には美辞麗句や修飾語句が多いのでインチキだ」という声をととき聞くことがあります。これはかつて私が或る団体に属していたころからその幹部がいつていたことですが、そんなことをいう人の文章を見ると一見して頭の程度が知れるような幼稚な文章であったりします。これは要するに求道精神のかけらも持たぬ人たちがアダムスキ氏の高遠な哲学が理解できぬまま感情的にムキになって妙な理屈をつけているだけのことにすぎません。あいにくア氏の文章は修飾語が多いどころか英文としては少ないほうで、少々古めかしい簡潔な文体であることは私の友人である米人も認めています。だいたい英語のシンタックス（構文法）を究明するのは日本人にとっては困難なのであって、文体から本人の体験の信憑性いかんまでも読みとることができないはずはありません。ましてやシンタックスの何たるかを知らない人が語法までも云々するのは見当違いも甚だしいというものです。と

にかく重要な報告文であるほど立派な文章で書いてあるのがよいことはいうまでもありません。そのためには修飾語を無視することはできないのです。前記の人々がア氏の英文を読まないで私の訳文だけから修飾語が多いように感じるとすれば、ア氏でなく私を非難するべきです。「訳文の文体を変えよ」と。しかし文体というものは本人の体質からにじみ出るものであって、しかも私は散文精神に徹した言文一致論者で「なるべく平易な文章で表現しよう」という主義のもとにやっていますから、簡単に変えるわけにはゆきません。

◎ 問題は文体や語法よりもア氏がいった何をいわんとしているかにあります。もちろん人間の間心や理解力には個人差がありますから、ア氏を攻撃する人を攻撃しても仕方がありません。そこはハニー氏のいうように自己の信ずる道を行きさえすればよいのでしようが、「わが道を行く」と「他人にたいする妨害」とのあいだには区別があるのであって、それがわからぬようではまだ子供だということになるでしょう。いったいに世の中はインテキで満ちているのにやたらにア氏のみをイカサマ師呼ばわりするのは私には奇妙に見えます。一例をあげますと、このごろしきりに出まわっている速成の英語会話参考書類はどうでしょう。一読しただけで明日から英語が話せるとか、もうちょっとで入という題名から二、三日読めばという印象を受ける。英語がしゃべれるとかいう本が飛ぶように売れています。こんなのを読んで実際に急速に英語が話せるようになったという例を聞いたことがありません。つまりならん信頼できない書物であるにもかかわらず、いい加減な題名と誇大な広告で大もうけをやっていているわけです。

ところが少数の学者を除いて、これをインテキだと批判する人も殆どいません。そこでこれについては著者と読者とのあいだの語学力の相違から生じる読者側の或る心理状態を考えてみる必要があります。心理学的にこれを分析するのは少々複雑になってきますが、「大衆は催眠術にかかりやすい」とだけはいえません。これは一例にすぎず、あたりを見まわせばこれに類した例はザラにあります。ひどいサギをやっていて不当な大もうけをやって世間のれっきとしたイカサマ師を無視して（いいかえれば催眠術にかかっている）一方ではア氏をサギ師として罵倒する——これではなんのことやらわけがわかりません。おそらく罵倒する本人にもわからないでしょう。

◎ 多忙でありましたために各種のご照会にたいし返事が遅れて申し訳ありません。これからしばらくのあいだは時間的な余裕が生じると思しますので疑義の点は遠慮なくお知らせ下さい。誌友諸賢のご健勝をお祈りします。（久保田）

日本GAPニューズレター	1963	5月・6月
編集発行人	久保田八郎	
発行所	日本GAP	
	島根県益田市益田古川	
	振替・松江 二六三〇	
	(久保田八郎個人名義)	
昭和三十八年六月十日発行		
通巻第16号		
	頒価一〇〇円(送料共)	